<table>
<tr><td>科目区分</td><td>専門分野</td><td rowspan="2">講師名</td><td rowspan="2">専任教員</td><td rowspan="4">学年</td><td rowspan="4">2学年</td><td rowspan="4">履修期</td><td rowspan="4">1学期</td></tr>
<tr><td>授業科目</td><td>診療の補助技術Ⅰ
（与薬）</td></tr>
<tr><td>単位・時間数</td><td>1単位･15時間</td><td rowspan="2">実務経験の有無</td><td rowspan="2">有</td></tr>
<tr><td>授業方法</td><td>講義 ・ 実技</td></tr>
<tr><td>科目目標</td><td colspan="7">1. 与薬の目的･用途･方法がわかり、安全で適切な与薬を行うための留意点について理解できる。
2. 皮下注射、点滴静脈内注射を原理･原則に沿って実施できる。</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="7">第1回（講義）
1.与薬の基礎知識
1)与薬経路と体内動態
2)薬物の作用･副作用
3)薬物療法に影響する因子
2.与薬における看護師の責任と役割
1)保健師助産師看護師法との関係
2)薬物に関する法律と薬物の管理
3)薬物療法の日常生活への影響と支援

第2回（講義）
1.与薬に共通する技術
1)薬物療法に関するアセスメント
2)指示内容･薬物･患者の確認
3)与薬方法と効果の観察
4)与薬の副作用（有害事象）の観察
5)患者への説明
2.各与薬法の実施方法
経口与薬、口腔内与薬、点眼･点鼻、
経皮的与薬、直腸内与薬

第3～4回 （講義）
1.注射の基礎知識
1)注射と法律
2)注射の種類
3)注射器･注射針の種類と選択
2. 注射の方法
1）注射薬の準備
2）注射方法
(1)皮下注射
(2)皮内注射
(3)筋肉内注射
(4)静脈内注射
(5)点滴静脈内注射

第5回（実技）
皮下注射

第6回（実技）
筋肉内注射

第7回（実技）
点滴静脈内注射

第8回
科目終了試験</td></tr>
<tr><td>評価方法</td><td colspan="7">筆記試験（100点）</td></tr>
<tr><td>テキスト</td><td colspan="7">1. 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔3〕 基礎看護技術Ⅱ （医学書院）
2. 看護技術プラクティス第4版 （Gakken）
3. 治療薬マニュアル （医学書院）</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td colspan="7"></td></tr>
<tr><td>備考
（メッセージ）</td><td colspan="7">与薬を受ける対象者は、不安や苦痛を伴う。その中で、看護師は医師の介助という役割だけでなく、与薬の目的が安全･安楽に達成でき、与薬を受ける対象の不安･苦痛を最小限にするように援助していく必要がある。皮下注射、点滴静脈内注射に関しては専門基礎分野で学んだ解剖生理学をしっかり復習しながら、根拠をふまえた技術を習得して欲しい。（皮下注射に関しては技術チェックを授業終了後に計画しています。）</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>科目区分</td><td>専門分野</td><td rowspan="2">講師名</td><td rowspan="2">専任教員</td><td rowspan="4">学年</td><td rowspan="4">2学年</td><td rowspan="4">履修期</td><td rowspan="4">1学期</td></tr>
<tr><td>授業科目</td><td>診療の補助技術Ⅱ
（治療・検査）</td></tr>
<tr><td>単位・時間数</td><td>1単位・30時間</td><td rowspan="2">実務経験の有無</td><td rowspan="2">有</td></tr>
<tr><td>授業方法</td><td>講義・実技</td></tr>
<tr><td>科目目標</td><td colspan="7">1. 診療・検査を受ける対象者の苦痛や不安を最小限にするための援助技術を習得する。
2. 対象者が呼吸を整えるために必要な方法を理解し、根拠をもって援助技術を習得する。</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="7">第1回
1.診察時の看護
2.検査時の看護
1)検査の目的と看護師の役割
2)検査の種類
第2回
1.検査・処置時の看護
1)生体検査（X線撮影、CT、MRI、内視鏡検査、超音波検査、核医学検査）
2)生体情報のモニタリング（心電図検査、心電図モニター、Spo2モニター
3)穿刺の介助（胸腔穿刺・腹腔穿刺・骨髄穿刺）
第3回〔校内実習〕
12誘導心電図
第4回
1.検体の採取と取り扱い方法
1)検体検査（血液検査・尿検査・便検査・喀痰検査）
2)静脈血採血
第5～6回〔校内実習含む〕
1.真空採血管を用いた静脈血の採血方法
第7回
1.輸血管理
1)輸血の目的
2)輸血の基礎知識
3)輸液時の看護師の役割
4)輸血時の看護
第8～9回
1.創傷管理の基礎知識
2.創傷処置
1)術後一時縫合創とドレーン創の処置
2)創洗浄と創保護
3)包帯法とその実際
(1)包帯法の目的
(2)包帯法の種類と巻き方
第10回
1.排痰ケアの基礎知識
2.援助の実際
1)体位ドレナージ
2)咳嗽介助、ハフィング
3)吸引
(1)吸引法の目的とて適応
(2)吸引法の種類（一時吸的・持続的吸引）
(3)一時的吸引法（口腔・鼻腔・気管内吸引）
第11回〔校内実習〕
体位ドレナージ
口腔内吸引
第12回
1.酸素療法
1)援助の基礎知識
2)中央配管方式による方法
3)酸素ボンベによる方法
2.吸入法
1)吸入法の目的、適応
2)吸入法の種類
3)吸入法の実際
第13回〔校内実習〕
酸素療法（中央配管方式、酸素ボンベ）
ネブライザー吸入
第14回 科目終了試験（技術試験）
・口腔内吸引
第15回
科目終了試験（筆記試験）</td></tr>
<tr><td>評価方法</td><td colspan="7">筆記試験（80点） 技術試験（20点）</td></tr>
<tr><td>テキスト</td><td colspan="7">1. 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔3〕 基礎看護技術Ⅱ （医学書院）
2. 看護技術プラクティス第4版 （Gakken）</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td colspan="7"></td></tr>
<tr><td>備考
（メッセージ）</td><td colspan="7">診療を受ける対象は、不安や苦痛を伴う。その中で、看護師は医師の介助という役割だけでなく、診療の目的が安全・安楽に達成でき、診療を受ける対象の不安・苦痛を最小限にするように援助していく必要がある。そのために必要な技術を学んで欲しい。さらに、何らかの理由で呼吸が整わない対象が、安全・安楽に過ごしていくためにはどのような援助が必要か、講義と校内演習を通して根拠をもった技術習得をして欲しい。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>科目区分</td><td>専門分野</td><td rowspan="2">講師名</td><td rowspan="2">専任教員</td><td rowspan="4">学年</td><td rowspan="4">2学年</td><td rowspan="4">履修期</td><td rowspan="4">2学期</td></tr>
<tr><td>授業科目</td><td>看護研究の基礎</td></tr>
<tr><td>単位・時間数</td><td>1 単位･15 時間</td><td rowspan="2">実務経験の有無</td><td rowspan="2">有</td></tr>
<tr><td>授業方法</td><td>講義</td></tr>
<tr><td>科目目標</td><td colspan="7">1. 看護実践活動における看護研究の必要性と看護の質の向上を図るための看護研究の基礎的方法と研究過程を理解する。
2. 研究的視点と態度を身につける。</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="7">第１回
１．看護実践活動における看護研究の意義
１）研究とは
２）看護基礎教育における看護研究
３）看護研究とは
４）看護実践と看護理論と研究との関係
２．看護研究における文献
１）文献検索と文献検討
２）文献検索の実際

第２回
１．研究デザイン
１）研究デザインとは
２．研究デザインの分類
１）質的研究と量的研究
２）因子探索研究、関係探索研究
関連検証研究、因果仮説検証研究

第３・４回
１．研究のプロセスと進め方
１）研究計画書の作成
（１）研究テーマと背景
（２)研究目的
（３）研究対象
（４）データの収集と分析

第５回
１．看護研究における倫理
１）研究活動における不正行為
２）研究における倫理原則
３）研究倫理の流れ
２．図表の作成と活用

第６回
１．論文作成と発表
１）スライド、ポスターの作成
２）効果的なプレゼンテーション
２．研究評価
３．論文クリティークとは

第７回
１．論文クリティークの実際

第８回
科目終了試験</td></tr>
<tr><td>評価方法</td><td colspan="7">筆記試験(100 点)</td></tr>
<tr><td>テキスト</td><td colspan="7">1. 楽しくなる看護研究 （メヂカルフレンド社）</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td colspan="7">1. 看護のためのわかりやすいケーススタディの進め方(照林社)</td></tr>
<tr><td>備考
(メッセージ)</td><td colspan="7">この授業は、臨床での科学的根拠をもった看護実践や 3 年次の看護研究･演習の基礎となる授業です。
研究成果を看護実践に活用したり、研究課題を絞り込むためにも、文献検索や研究をクリティークする力は必要です。研究的態度や研究的思考は、日々の看護実践にも欠かせないものです。臨地実習でみる様々な看護現象に常に関心や疑問をもち、探究する姿勢と行動力を身に付けて欲しいと思います。
日頃からとにかく文献を読みましょう。新しい知識を獲得することで学習はさらに深まります。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>科目区分</td><td>専門分野</td><td rowspan="2">講師名</td><td rowspan="2">専任教員</td><td rowspan="4">学年</td><td rowspan="4">2学年</td><td rowspan="4">履修期</td><td rowspan="4">1学期</td></tr>
<tr><td>授業科目</td><td>災害に備える
健康な暮らしと看護</td></tr>
<tr><td>単位・時間数</td><td>1 単位･15 時間</td><td rowspan="2">実務経験の有無</td><td rowspan="2">有</td></tr>
<tr><td>授業方法</td><td>講義 ・ 演習</td></tr>
<tr><td>科目目標</td><td colspan="7">1.　地域の人々にとっての災害時のリスクについて説明することができる。
2.　災害時のリスクに対する備えを安全と健康の視点で考えることができる。
3.　地域で暮らす住民を災害から守る看護の役割や支援の在り方を探究できる。</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="7">＜事前学習＞
・龍馬の創った高知学でフィールドワークした高知県や自分の住んでいる市町村の調べ学習の資料より、災害時のリスクを考えていくのに参考になる部分を抽出し、再確認し授業に活用する。
・高知県の防災対策や災害に関する資料を各自で収集し、授業に活用する。

第１回　（講義）
１．災害の概要
１）災害の定義と特徴
２）災害看護の対象
３）災害時医療の基本
４）災害の種類と健康障害

第２・３回（訓練参加）
１．地域における防災訓練
１）防災訓練の意義と目的
２）防災訓練の実際

第４・５回（演習）
１．「災害時に医療施設は被災者にとってどうあるべきか」
１）GW と発表
２）まとめ

第６回　（演習）
１．「災害に向け、今できる備えを考えよう」
１）災害時の地域のリスク
２）災害が人々の暮らしや健康に与える影響
３）災害時のリスクや人々の暮らしや健康に与える影響をふまえた備え

第７回　（演習）
１．「災害に向け、今できる備えを考えよう」
１）GW と発表

第８回（講義）
１．まとめ</td></tr>
<tr><td>評価方法</td><td colspan="7">課題レポート
グループ発表</td></tr>
<tr><td>テキスト</td><td colspan="7">系統看護学講座　専門分野　地域･看護論[1]地域･在宅看護の基盤（医学書院）</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td colspan="7">防災啓発冊子「南海トラフ地震にそなえちょき」</td></tr>
<tr><td>備考
(メッセージ)</td><td colspan="7">社会学･演習や龍馬の創った高知学で学んだことを活かしながら、地域の特性を理解し健康の視点から、自分たちにできる災害への備えについて一緒に考えていきましょう。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>科目区分</td><td>専門分野</td><td rowspan="2">講師名</td><td rowspan="2">院外講師</td><td rowspan="4">学年</td><td rowspan="4">2学年</td><td rowspan="4">履修期</td><td rowspan="4">1学期</td></tr>
<tr><td>授業科目</td><td>在宅看護論概説</td></tr>
<tr><td>単位・時間数</td><td>1単位・15時間</td><td rowspan="2">実務経験の有無</td><td rowspan="2">有</td></tr>
<tr><td>授業方法</td><td>講義</td></tr>
<tr><td>科目目標</td><td colspan="7">1. 在宅看護の目的および対象者の特徴と看護師の役割が理解できる。
2. 保健医療福祉の連携や社会資源の活用を含む在宅療養支援が理解できる。</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="7">第1回　地域・在宅看護の役割と対象
1. 地域・在宅看護の基盤となる考え方
2. 地域・在宅看護に求められる役割
3. 地域・在宅看護の対象者
1)地域による多様性
2)ライフステージによる多様性
3)健康レベルの多様性
4. 家族の理解
1)わが国における家族の現状
2)わが国における家族とその変遷
3)地域・在宅看護の対象としての家族
5. 地域に暮らす対象者の理解と看護
1)地域の特性の理解と看護
2)家族のライフステージの理解と看護
3)対象者の理解からつながりをつくる看護

第2回　地域における暮らしを支える看護(1)
1. 暮らしを支える地域・在宅看護
1)「暮らしを支える看護」とは
2)「暮らしを支える看護」の実践
2. 暮らしの環境を整える看護
1)暮らしに関連する環境
2)暮らしの環境を整える看護とは
3)看護師に求められる態度・知識・姿勢
4)環境を整える看護の意義

第3回　地域における暮らしを支える看護(2)
3. 広がる看護の対象と提供方式
1)健康に対する人々のニーズ
2)看護の実践方法の広がり
3)人々の健康ニーズにこたえる看護
4)健康ニーズを支える看護の実践例
4. 地域における家族への看護
1)地域における家族への看護とは
2)家族を支援する看護師の基本的な姿勢

第4回　地域における暮らしを支える看護(3)
5. 地域におけるライフステージに応じた看護
1)ライフステージと人々の暮らし
2)ライフステージによる健康課題と予防
3)疾病とライフステージ
4)家族とライフステージ
6. 地域での暮らしにおけるリスクの理解
1)暮らしにおけるリスク
2)暮らしにおけるリスクの種類
3)できる限り安全に暮らしつづけるための援助
7. 地域での暮らしにおける災害対策
1)暮らしと災害
2)地域・在宅看護と災害対策

第5回　地域・在宅看護実践の場と連携
1. さまざまな場、さまざまな職種で支える地域の暮らし
2. おもな地域・在宅看護実践の場
3. 地域・在宅看護における他職種連携

第6・7回　地域・在宅看護にかかわる制度とその活用
1. 介護保険・医療保険制度
1)介護保険制度
2)医療保険制度
2. 地域・在宅看護にかかわる医療提供体制
3. 訪問看護の制度
4. 地域保健にかかわる法制度
5. 高齢者に関する法制度
6. 障害者・難病に関する法制度
7. 公費負担医療に関する法制度
8. 権利保障に関連する制度</td></tr>
<tr><td>評価方法</td><td colspan="7">筆記試験</td></tr>
<tr><td>テキスト</td><td colspan="7">1. 系統看護学講座　専門分野　地域・在宅看護論[1]　地域・在宅看護の基盤　　(医学書院)</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td colspan="7">国民衛生の動向</td></tr>
<tr><td>備考
(メッセージ)</td><td colspan="7">少子高齢化の進展と共に、『医療機能の分化・連携の推進による切れ目のない医療の提供』『在宅医の充実による患者の生活の質(QOL)の向上』が求められ、在宅看護はますます重要となってきています。病院での看護との違いに着目して、在宅看護を学習してください。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>科目区分</td><td>専門分野</td><td rowspan="2">講師名</td><td rowspan="2">院外講師</td><td rowspan="4">学年</td><td rowspan="4">2学年</td><td rowspan="4">履修期</td><td rowspan="4">2学期</td></tr>
<tr><td>授業科目</td><td>地域の暮らしを支える
看護実践プロセス</td></tr>
<tr><td>単位・時間数</td><td>1単位・30 時間</td><td rowspan="2">実務経験の
有無</td><td rowspan="2">有</td></tr>
<tr><td>授業方法</td><td>講義・実技</td></tr>
<tr><td>科目目標</td><td colspan="7">1. 地域・在宅で暮らす人の日常生活と家族支援の視点及び支援活動の方法を理解する。
2. 地域ケアの体制の現状と課題を学び地域・在宅看護に関心を持つことができる。</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="7">第１回
１．地域・在宅看護における看護過程
１）看護過程とその意義
２）地域・在宅看護における看護過程の基本
３）地域・在宅看護における看護過程の展開

第２回・３回
１．地域・在宅看護過程の展開方法
１）地域・在宅看護過程の特徴
２）地域・在宅看護過程における情報収集とアセスメント
３）地域・在宅看護過程における看護目標の設定・計画
４）地域・在宅看護の実施と評価
５）地域・在宅看護過程をさらに発展させる視点
６）地域・在宅看護の標準化に向けた取り組み

第４回・５回
１．暮らしの場で看護をするための心構え
１）地域・在宅看護実践とは
２）地域・在宅看護実践に欠かせない要素
２．セルフケアを支える対話・コミュニケーション
１）対象者と看護師のパートナーシップ
２）対象者と看護師のコミュニケーション
３．地域・在宅における家族を支える看護
１）家族のアセスメントポイント
２）家族の支援

第６回
地域・在宅看護における安全をまもる看護

第７回～１０回 [校内演習を含む]
１．地域における暮らしを支える看護実践
療養環境調整、活動・休息、食生活・嚥下、排泄、清潔・衣生活、苦痛の緩和・安楽確保、呼吸・循環、創傷管理、与薬

第１１回～１４回
１．地域・在宅における時期別の看護
１）健康な時期の看護
２）外来受診期における看護
３）入院時の看護
４）在宅療養準備期（退院前）の看護
５）在宅療養移行期の看護
６）在宅療養安定期の看護
７）急性増悪期の看護
８）終末期の看護（グリーフケアを含む）
９）在宅療養終了期の看護

第15回
科目終了試験、科目の振り返り</td></tr>
<tr><td>評価方法</td><td colspan="7">筆記試験（100 点）</td></tr>
<tr><td>テキスト</td><td colspan="7">1. 系統看護学講座　専門分野　地域・在宅看護論[1]　地域・在宅看護の基盤　（医学書院）
2. 系統看護学講座　専門分野　地域・在宅看護論[2]　地域・在宅看護の実践　（医学書院）
3. よくわかる在宅看護　改訂３版（学研メディカル秀潤社）</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td colspan="7">1. 写真でよくわかる訪問看護（インターメディカ）</td></tr>
<tr><td>備考
（メッセージ）</td><td colspan="7">人々が暮らす地域という環境においては多様な看護が求められます。皆さんと共に対象者の「生きること」を支えるために必要な看護過程や看護技術、時期別の看護について考えていきたいと思います。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>科目区分</td><td>専門分野</td><td rowspan="2">講師名</td><td rowspan="2">院外講師</td><td rowspan="4">学年</td><td rowspan="4">2学年</td><td rowspan="4">履修期</td><td rowspan="4">2学期</td></tr>
<tr><td>授業科目</td><td>地域で暮らす人々を支える看護</td></tr>
<tr><td>単位・時間数</td><td>1単位・30 時間</td><td rowspan="2">実務経験の有無</td><td rowspan="2">有</td></tr>
<tr><td>授業方法</td><td>講義・演習</td></tr>
<tr><td>科目目標</td><td colspan="7">1.　地域で暮らす多様な療養者と家族の体験や思いを理解し、個人・家族・地域社会の視座で看護の対象を捉え、看護援助を考案することができる。
2. 地域・在宅で暮らす対象者の健康上の課題を考察し、個別性を踏まえた必要な訪問看護計画を立案することができる。</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="7">第１回
１．在宅で療養する人とその家族の思い（語ってもらう）
第２～５回　[演習を含む]
１．在宅移行支援が必要な療養者と家族の看護と事例展開
１）退院支援、退院調整に関わる多職種の連携
２）患者・家族の意思決定支援と調整
３）脳血管疾患を発症した患者の在宅療養導入の事例展開

第６～９回　[演習を含む]
１．　健康や生活に問題を抱えた療養者と家族の事例展開
１）パーキンソン病の療養者の在宅看護
２）ALS で人工呼吸療法を実施する療養者の在宅看護
３）グループ発表

第 10～12 回　[演習を含む]
１．　終末期にある療養者と家族への看護
１）エンドオブライフケア
２）緩和ケア
３）アドバンス・ケア・プランニング
４）終末期（がん）の療養者に対する在宅看護の事例展開

第 13～14 回　[演習を含む]
１．　医療ニーズの高い療養者と家族への看護
１）小児の療養者に対する在宅看護の事例展開

第 15 回
科目終了試験、科目の振り返り</td></tr>
<tr><td>評価方法</td><td colspan="7">筆記試験及びグループワーク・課題（ルーブリック評価）を総合して 100 点</td></tr>
<tr><td>テキスト</td><td colspan="7">1. 系統看護学講座　専門分野　地域・看護論[1]　地域・在宅看護の基盤　（医学書院）
2. 系統看護学講座　専門分野　地域・看護論[2]　地域・在宅看護の実践　（医学書院）</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td colspan="7">※1. 疾患別看護過程の展開　第6版（学研）
※2. 経過別看護過程の展開（学研）
※3. クリニカルスタディブック2　実習に役立つ病態マップ（メヂカルフレンド社）
※4. 強みと弱みからみた地域・在宅看護過程　第２版（医学書院）</td></tr>
<tr><td>備考（メッセージ）</td><td colspan="7">在宅看護の看護過程において必要な情報の収集・アセスメント、問題の明確化、優先順位に基づいた看護計画の立案、実践、評価ができるよう講義とグループワークを通して学びましょう。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>科目区分</td><td>専門分野</td><td rowspan="2">講師名</td><td rowspan="2">専任教員</td><td rowspan="4">学年</td><td rowspan="4">2学年</td><td rowspan="4">履修期</td><td rowspan="4">1学期</td></tr>
<tr><td>授業科目</td><td>成人看護方法論Ⅰ
(周手術期、治療・健康レベル別)</td></tr>
<tr><td>単位・時間数</td><td>1 単位・12/30 時間</td><td rowspan="2">実務経験の有無</td><td rowspan="2">有</td></tr>
<tr><td>授業方法</td><td>講義</td></tr>
<tr><td>科目目標</td><td colspan="7">1. 周手術期看護を理解する。</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="7">第1回
1. 急性期とは
1)急性期にある対象と家族の特徴
2. 周手術期の看護
1)手術療法の基礎的知識
2)手術療法の目的、種類と適応
3)麻酔・手術操作が身体に及ぼす影響

第2回
1. 手術前期の看護
1)心理状況の把握と意思決定への支援
2)全身状態の把握とアセスメント
3)手術期の看護

第3回
1. 手術後期の看護
1)術後ベッド・必要物品の準備
2)観察とアセスメントと看護
(1)術後疼痛
(2)呼吸器系

第4回
1. 手術後期の看護
1)観察とアセスメントと看護
(3)循環器系
(4)消化器系
(5)腎・泌尿器系
(6)神経系
(7)精神状態

第5回
1. 手術後期の看護
1)観察とアセスメントと看護
(8)創傷治癒過
(9)術後感染症
(10)早期離床の利点と離床時の注意点

第6回〔校内実習〕
1. 手術後期の看護技術
1)術後ベッドの作成
(1)胃がん術後
(2)腰椎ヘルニア術後
2. 離床時の援助
3. ドレーン管理</td></tr>
<tr><td>評価方法</td><td colspan="7">筆記試験</td></tr>
<tr><td>テキスト</td><td colspan="7">1. 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論(医学書院)</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td colspan="7">1. 周手術期の臨床判断を磨く 手術侵襲と生体反応から導く看護 (医学書院)
2. 看護観察のキーポイント 急性期・周手術期Ⅰ (中央法規)
3. 看護観察のキーポイント 急性期・周手術期Ⅱ (中央法規)
4. 周手術期看護1 外来／病棟における術前看護 (医歯薬出版)
5. 周手術期看護2 術中／術後の生体反応と急性期看護 (医歯薬出版)</td></tr>
<tr><td>備考
(メッセージ)</td><td colspan="7">手術を受ける対象者に必要な観察やリスクアセスメントが行えるように講義を行っていきたいと思います。また、先を見越した予防的看護やその場の状況をつかむ力、行動しつつ考えるということが急性期看護には求められます。校内演習では受動的ではなく能動的に場面を見て考えてもらいたいと思います。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>科目区分</td><td>専門分野</td><td rowspan="2">講師名</td><td rowspan="2">院内講師</td><td rowspan="4">学年</td><td rowspan="4">2学年</td><td rowspan="4">履修期</td><td rowspan="4">1学期</td></tr>
<tr><td>授業科目</td><td>成人看護方法論Ⅰ
(周手術期、治療・健康レベル別)</td></tr>
<tr><td>単位・時間数</td><td>1 単位・2/30 時間</td><td rowspan="2">実務経験の有無</td><td rowspan="2">有</td></tr>
<tr><td>授業方法</td><td>講義</td></tr>
<tr><td>科目目標</td><td colspan="7">1. 周手術期看護を理解する。</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="7">第1回
1. 安全な手術のための環境管理
1)手術室の環境管理
2. 術中の看護
1)手術室入室から麻酔導入までの看護
(1)麻酔
2)手術体位の固定
(1)体位固定時の留意点
3)手術中の看護師の役割
(1)術中異常時の援助
(2)輸液・輸血・与薬の援助
(3)出血量測定
(4)手洗い看護師及び術者への協力、術中看護記録
4)麻酔覚醒時の援助
(1)手術終了～麻酔覚醒、気管チューブ抜去の看護
(2)麻酔覚醒時の苦痛の緩和</td></tr>
<tr><td>評価方法</td><td colspan="7">筆記試験</td></tr>
<tr><td>テキスト</td><td colspan="7">1. 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論(医学書院)</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td colspan="7">1. 周手術期の臨床判断を磨く 手術侵襲と生体反応から導く看護 (医学書院)
2. 看護観察のキーポイント 急性期・周手術期Ⅰ (中央法規)
3. 看護観察のキーポイント 急性期・周手術期Ⅱ (中央法規)
4. 周手術期看護1 外来／病棟における術前看護 (医歯薬出版)
5. 周手術期看護2 術中／術後の生体反応と急性期看護 (医歯薬出版)</td></tr>
<tr><td>備考
(メッセージ)</td><td colspan="7">手術を受ける対象者に必要な観察やリスクアセスメントが行えるように講義を行っていきたいと思います。また、先を見越した予防的看護やその場の状況をつかむ力、行動しつつ考えるということが急性期看護には求められます。校内演習では受動的ではなく能動的に場面を見て考えてもらいたいと思います。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>科目区分</td><td>専門分野</td><td rowspan="2">講師名</td><td rowspan="2">院内講師</td><td rowspan="4">学年</td><td rowspan="4">2学年</td><td rowspan="4">履修期</td><td rowspan="4">1学期</td></tr>
<tr><td>授業科目</td><td>成人看護方法論Ⅰ
(周手術期、治療・健康レベル別)</td></tr>
<tr><td>単位・時間数</td><td>1単位・6/30時間</td><td rowspan="2">実務経験の有無</td><td rowspan="2">有</td></tr>
<tr><td>授業方法</td><td>講義</td></tr>
<tr><td>科目目標</td><td colspan="7">1. 化学療法を受ける患者の看護を理解する。</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="7">第1～3回
1. 化学療法を受ける患者の看護
1) 化学療法とは何か
2) 基礎知識としての使用薬剤と、
主な副作用
3) 化学療法を受ける血液疾患患者の看護
(事例を通して)</td></tr>
<tr><td>評価方法</td><td colspan="7">筆記試験</td></tr>
<tr><td>テキスト</td><td colspan="7">1. 系統看護学講座 別巻 がん看護学 (医学書院)</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td colspan="7"></td></tr>
<tr><td>備考
(メッセージ)</td><td colspan="7">講義前に内容を一読しておいてください。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>科目区分</td><td>専門分野</td><td rowspan="2">講師名</td><td rowspan="2">専任教員</td><td rowspan="4">学年</td><td rowspan="4">2学年</td><td rowspan="4">履修期</td><td rowspan="4">1学期</td></tr>
<tr><td>授業科目</td><td>成人看護方法論Ⅰ
(周手術期、治療・健康レベル別)</td></tr>
<tr><td>単位・時間数</td><td>1単位・10/30時間</td><td rowspan="2">実務経験の有無</td><td rowspan="2">有</td></tr>
<tr><td>授業方法</td><td>講義</td></tr>
<tr><td>科目目標</td><td colspan="7">1. 放射線療法を受ける患者の看護を理解する。
2. 緩和ケアを受ける患者の看護を理解する。</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="7">第1回
1. 放射線療法を受ける患者の看護
1) 放射線療法とは何か
2) 放射線療法の特徴
3) 放射線療法の作用・副作用
4) 看護
(1) 放射線療法前・中・後の看護
(2) 放射線療法の副作用と看護
(3) 照射法別の看護

第2～4回
1. 緩和ケアを必要とする患者の看護
1)緩和ケアの基礎知識
2)緩和ケア看護に必要な援助
(1)意思決定支援
(2)身体的ケア
(がん性疼痛と症状コントロール)
(3)精神的、社会的、スピリチュアルケア

第5回
1. 看取りの看護
1)臨死期の看護
2)予後数日の看護
3)死亡時の看護
4)終末期を支える家族への看護</td></tr>
<tr><td>評価方法</td><td colspan="7">筆記試験</td></tr>
<tr><td>テキスト</td><td colspan="7">1. 系統看護学講座 別巻 がん看護学 (医学書院)
2. 系統看護学講座 別巻 緩和ケア (医学書院)</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td colspan="7">必要に応じて授業で紹介します。</td></tr>
<tr><td>備考
(メッセージ)</td><td colspan="7">講義前に内容を一読しておいてください。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>科目区分</td><td>専門分野</td><td rowspan="2">講師名</td><td rowspan="2">専任教員</td><td rowspan="4">学年</td><td rowspan="4">2学年</td><td rowspan="4">履修期</td><td rowspan="4">1学期</td></tr>
<tr><td>授業科目</td><td>成人看護方法論Ⅱ
(呼吸器、循環器、脳神経、運動器)</td></tr>
<tr><td>単位・時間数</td><td>1 単位・16/30 時間</td><td rowspan="2">実務経験の有無</td><td rowspan="2">有</td></tr>
<tr><td>授業方法</td><td>講義</td></tr>
<tr><td>科目目標</td><td colspan="7">1. 呼吸機能障害のある患者の看護について理解する。
2. 循環機能障害のある患者の看護について理解する。</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="7">第1・2回
1. 肺炎患者の看護
1)基礎知識
2)看護アセスメント
3)看護活動
(1)主たる症状:発熱、咳嗽、喀痰
(2)主たる検査:血液検査、画像検査
2. 急性呼吸窮迫症候群患者 の看護
1)基礎知識
2)看護アセスメント
3)看護活動
(1)主たる症状:咳嗽、喀痰, 呼吸困難
(2)主たる検査:血液検査、画像検査
(3)人工呼吸器装着時の看護
・人工呼吸器の適切な設定と取り扱い
・合併症予防
・人工呼吸器離脱に向けた援助
・精神的援助
第3回
1. 慢性閉塞性肺疾患患者の看護
1)基礎知識
2)看護アセスメント
3)看護活動
(1)主たる症状:呼吸困難、咳嗽、痰
(2)主たる検査:呼吸機能検査
(3)急性憎悪期の看護
・気道の清浄化
・換気
(4)安定期の看護
・薬物療法 ・禁煙教育
・呼吸リハビリテーション・酸素療法
第4回
1. 肺がん患者の看護
1)基礎知識
2)開胸術を受ける患者の看護
(1)術前の看護
(2)術後の看護
(3)術後合併症予防の看護
・胸腔ドレーンの管理〔演示〕
第5回
1. 急性心筋梗塞患者の看護
1)基礎知識
2)看護アセスメント
3)看護活動
(1)主たる症状:胸痛
(2)主たる検査:血液検査、心エコー、画像検査
第6回
1. 心不全患者の看護
1)基礎知識
2)看護アセスメント
3)看護活動
第7回
1. 不整脈患者の看護
1)基礎知識
2)看護アセスメント
3)看護活動
(1)主たる症状:眩暈、失神、ショック
(2)主たる検査:心電図
第8回 科目終了試験</td></tr>
<tr><td>評価方法</td><td colspan="7">筆記試験</td></tr>
<tr><td>テキスト</td><td colspan="7">1. 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[2] 呼吸器 (医学書院)
2. 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[3] 循環器 (医学書院)</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td colspan="7">1. ナースのための看護処置マニュアル (照林社)</td></tr>
<tr><td>備考
(メッセージ)</td><td colspan="7">事前にテキストを読んで授業に参加して下さい。復習を行い解らないことは質問をして下さい。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>科目区分</td><td>専門分野</td><td rowspan="2">講師名</td><td rowspan="2">専任教員</td><td rowspan="4">学年</td><td rowspan="4">2学年</td><td rowspan="4">履修期</td><td rowspan="4">1学期</td></tr>
<tr><td>授業科目</td><td>成人看護方法論Ⅱ
(呼吸器、循環器、脳神経、運動器)</td></tr>
<tr><td>単位・時間数</td><td>1 単位・14/30 時間</td><td rowspan="2">実務経験の有無</td><td rowspan="2">有</td></tr>
<tr><td>授業方法</td><td>講義</td></tr>
<tr><td>科目目標</td><td colspan="7">1. 脳・神経機能障害のある患者の看護について理解する。
2. 運動機能障害のある患者の看護について理解する。</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="7">第1回
くも膜下出血患者のある患者の看護
基礎知識
看護活動
(1)主たる症状:頭蓋内圧亢進症状
(2)主たる検査・治療:血管造影、脳室ドレナージ
第2回
脳梗塞患者の看護
基礎知識
看護アセスメント
看護活動
(1)主たる症状:意識障害、言語障害、運動麻痺、嚥下障害
第3回
脳腫瘍患者の看護
基礎知識
開頭術を受ける患者の看護
1)術前の看護
2)術後の看護
3)手術により生じる機能低下
第4回
脊椎損傷患者の看護
基礎知識
看護アセスメント
看護活動
主たる症状:四肢麻痺、対麻痺、呼吸障害
脊髄ショック期の看護
社会復帰に向けた援助
第5回
腰椎椎間板ヘルニア患者の看護
基礎知識
看護アセスメント
看護活動
脊椎造影検査時の看護
第6回
関節リウマチ患者の看護
変形性関節症(股・膝関節)患者の看護
基礎知識
看護アセスメント
看護活動
主たる症状:関節可動域制限、疼痛
膝関節全置換術を受ける患者の看護
股関節全置換術を受ける患者の看護
第7回
保存療法を受ける患者の看護
ギプス固定を受ける患者の看護
ギプス固定の目的・方法・種類
ギプス固定による合併症予防のための看護
牽引療法を受ける患者の看護
牽引療法の目的・方法・種類
疼痛を考慮した体位交換、日常生活援助</td></tr>
<tr><td>評価方法</td><td colspan="7">筆記試験</td></tr>
<tr><td>テキスト</td><td colspan="7">1. 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[7] 脳・神経 (医学書院)
2. 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[10] 運動器 (医学書院)
3. 系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 (医学書院)</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td colspan="7"></td></tr>
<tr><td>備考
(メッセージ)</td><td colspan="7">事前にテキストを読んで授業に参加して下さい。復習を行い解らないことは質問をして下さい。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>科目区分</td><td>専門分野</td><td rowspan="2">講師名</td><td rowspan="2">院内講師</td><td rowspan="4">学年</td><td rowspan="4">2学年</td><td rowspan="4">履修期</td><td rowspan="4">1学期</td></tr>
<tr><td>授業科目</td><td>成人看護方法論Ⅳ
（政策医療）</td></tr>
<tr><td>単位・時間数</td><td>1 単位･2/15 時間</td><td rowspan="2">実務経験の有無</td><td rowspan="2">有</td></tr>
<tr><td>授業方法</td><td>講義</td></tr>
<tr><td>科目目標</td><td colspan="7">1. 国立病院機構が担う政策医療の内容と看護の特徴を理解する。</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="7">第1回（講義）
1. 国立病院機構の役割と機能の理解
1）国立病院のあゆみ
2）国立病院機構の目的
3）国立病院機構の特徴
4）医療の方向性と組織の役割機能
2. 国立ハンセン病療養所
3. 国立病院機構が実施している政策医療分野
と看護の特徴</td></tr>
<tr><td>評価方法</td><td colspan="7">筆記試験</td></tr>
<tr><td>テキスト</td><td colspan="7">1. 国民衛生の動向（2024/2025）（厚生労働統計協会）</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td colspan="7"></td></tr>
<tr><td>備考
（メッセージ）</td><td colspan="7">国立病院機構附属看護学校の学生として、政策医療分野に興味･関心をもち、この分野における看護の対象理解と、看護実践の基礎的知識を学んでほしいと思います。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>科目区分</td><td>専門分野</td><td rowspan="2">講師名</td><td rowspan="2">院内講師</td><td rowspan="4">学年</td><td rowspan="4">2学年</td><td rowspan="4">履修期</td><td rowspan="4">1学期</td></tr>
<tr><td>授業科目</td><td>成人看護方法論Ⅳ
（政策医療）</td></tr>
<tr><td>単位・時間数</td><td>1 単位･4/15 時間</td><td rowspan="2">実務経験の有無</td><td rowspan="2">有</td></tr>
<tr><td>授業方法</td><td>演習</td></tr>
<tr><td>科目目標</td><td colspan="7">1. 医療現場における危険予知を理解する。</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="7">第1～2回（演習）
1. 医療現場におけるKYT
―本人、対象者、現場がもつリスクと対策―</td></tr>
<tr><td>評価方法</td><td colspan="7">課題レポート</td></tr>
<tr><td>テキスト</td><td colspan="7">1. 国民衛生の動向（2024/2025）　（厚生労働統計協会）
2. ナーシンググラフィカ　医療安全　（メディカ出版）</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td colspan="7"></td></tr>
<tr><td>備考
（メッセージ）</td><td colspan="7">国立病院機構附属看護学校の学生として、政策医療分野に興味・関心をもち、この分野における看護の対象理解と、看護実践の基礎的知識を学んでほしいと思います。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>科目区分</td><td>専門分野</td><td rowspan="2">講師名</td><td rowspan="2">専任教員</td><td rowspan="4">学年</td><td rowspan="4">2学年</td><td rowspan="4">履修期</td><td rowspan="4">1学期</td></tr>
<tr><td>授業科目</td><td>成人看護方法論Ⅳ
(政策医療)</td></tr>
<tr><td>単位・時間数</td><td>1単位・9/15時間</td><td rowspan="2">実務経験の有無</td><td rowspan="2">有</td></tr>
<tr><td>授業方法</td><td>講義</td></tr>
<tr><td>科目目標</td><td colspan="7">1. 重症心身障害児(者)・神経難病患者・進行性筋ジストロフィー患者・HIV/AIDS患者・結核感染症患者への日常生活の基本的な援助方法を理解する。</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="7">第1～2回
1. 重症心身障害児(者)の看護
1) 基礎知識
2) 障害者観
3) 看護アセスメント
4) 看護活動
主たる症状:運動障害、呼吸障害
摂食障害、排泄障害
主たる検査:脳CT、脳MRI、 脳波、
発達診断検査、 知能検査
第3回
1. 神経難病患者の看護
1) 基礎知識
2) 看護アセスメント
3) 看護活動
主たる症状:筋力低下、感覚低下、筋萎縮
主たる検査:筋電図、免疫血清検査
2. 進行性筋ジストロフィー患者の看護
1) 基礎知識
2) 看護アセスメント
3) 看護活動
主たる症状:骨格筋の萎縮、筋力の低下
主たる検査:CK、筋生検
第4回
1. HIV/AIDS患者の看護
1) 基礎知識
2) 看護アセスメント
3) 看護活動
主たる症状:発熱、倦怠感
主たる検査:血液検査
2. 結核患者の看護
1) 基礎知識
2) 看護アセスメント
3) 看護活動
主たる症状:咳嗽、発熱、喀痰、血痰、
全身倦怠感
主たる検査:ツベルクリン検査、 抗酸菌検査
第5回
科目終了試験</td></tr>
<tr><td>評価方法</td><td colspan="7">筆記試験</td></tr>
<tr><td>テキスト</td><td colspan="7">1. 国民衛生の動向(2024/2025) (厚生労働統計協会)
2. 新版 重症心身障害者療育マニュアル 第2版 (医歯薬出版)
3. 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[2] 呼吸器 (医学書院)
4. 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[11] アレルギー 膠原病 感染症 (医学書院)
5. 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[7] 脳・神経 (医学書院)</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td colspan="7"></td></tr>
<tr><td>備考
(メッセージ)</td><td colspan="7">国立病院機構附属看護学校の学生として、政策医療分野に興味・関心をもち、この分野における看護の対象理解と、看護実践の基礎的知識を学んでほしいと思います。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>科目区分</td><td>専門分野</td><td rowspan="2">講師名</td><td rowspan="2">専任教員</td><td rowspan="4">学年</td><td rowspan="4">2学年</td><td rowspan="4">履修期</td><td rowspan="4">1学期</td></tr>
<tr><td>授業科目</td><td>成人看護方法論・演習</td></tr>
<tr><td>単位・時間数</td><td>1単位・30時間</td><td rowspan="2">実務経験の有無</td><td rowspan="2">有</td></tr>
<tr><td>授業方法</td><td>講義・演習・実技</td></tr>
<tr><td>科目目標</td><td colspan="7">成人期で周手術期にある事例を通して、手術が及ぼす影響を理解し、その時の状況に応じた看護を考える。</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="7">〈胃癌で手術を受ける成人期の患者の看護〉
第1・2回
事例を基に「術前アセスメントシート」を用いて術前の患者の全身評価をする
1. 術前の全身状態の把握と術後問題の予測
2. 術後侵襲及び全身麻酔の影響
1)術後呼吸器合併症
2)術後循環器合併症
3)術後イレウス
4)縫合不全
5)術後感染症
6)術後疼痛
第3・4回
看護目標と看護計画の立案
1. 術後合併症予防のための術前・術後の看護目標と看護計画の立案
第5回
事例を基に、胃を切除したことによる機能的変化により生じる術後問題を予測する
1. 胃の切除による機能的変化によって生じる術後の看護問題
第6回
1. 胃の切除術前・後の機能の変化に対する看護計画の立案
第7～9回
事例を基に「関連図」を作成し、術前から術後を通して患者の状態を把握する
1. 術前からの全身状態の把握
2. 術後問題の予測
3. 手術侵襲と全身麻酔の影響
4. 胃の切除による機能変化と術後問題
5. 看護問題
第10回
術後の情報から本日の援助計画を立案する
第11回〔校内実習〕
術後観察の実際
1. 看護計画に基づいた看護援助の実際
第12・13回
術後観察の振り返り
看護実践の評価
第14回
術後回復に沿った援助内容
第15回
看護評価</td></tr>
<tr><td>評価方法</td><td colspan="7">ルーブリック評価</td></tr>
<tr><td>テキスト</td><td colspan="7">1. 系統看護学講座　臨床外科看護総論(医学書院)
2. 系統看護学講座　臨床外科看護各論(医学書院)
3. 系統看護学講座　専門分野　成人看護学〔5〕消化器　(医学書院)</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td colspan="7">1. 経過別看護過程の展開　(学研)
2. 治療薬マニュアル(医学書院)
※3. 疾患別看護過程の展開　(学研)
※4. 成人看護学シリーズ　急性期看護論　(ヌーヴェルヒロカワ)
※5. 成人看護学シリーズ　周手術期看護論　(ヌーヴェルヒロカワ)
※6. 周手術期看護1　外来／病棟における術前看護　(医歯薬出版)
※7. 周手術期看護2　術中／術後の生体反応と急性期看護　(医歯薬出版)
※8. 周手術期看護3　開腹術／腹腔鏡下手術を受ける患者の看護　(医歯薬出版)</td></tr>
<tr><td>備考
(メッセージ)</td><td colspan="7">対象の状態をイメージ化出来るように、文献等を活用して看護援助の立案が行えるように学習していきましょう。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>科目区分</td><td>専門分野</td><td rowspan="2">講師名</td><td rowspan="2">専任教員</td><td rowspan="4">学年</td><td rowspan="4">2学年</td><td rowspan="4">履修期</td><td rowspan="4">1学期</td></tr>
<tr><td>授業科目</td><td>老年看護方法論Ⅰ
（加齢と健康障害）</td></tr>
<tr><td>単位・時間数</td><td>1単位・16/30時間</td><td rowspan="2">実務経験の有無</td><td rowspan="2">有</td></tr>
<tr><td>授業方法</td><td>講義・演習・実技</td></tr>
<tr><td>科目目標</td><td colspan="7">1. 老年期にある対象の身体的・精神的・社会的特徴を踏まえて、健康障害をもつ高齢者が入院や検査・手術・薬物療法などを受ける際に必要な看護について理解する。
2. 健康障害をもちながら退院する際に必要な援助やターミナルケアについて理解する。</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="7">第1回（講義）
1. 検査を受ける高齢者の看護
1）検査実施への援助
2）検査結果のアセスメント
2. 食生活のアセスメント
1）栄養ケアマネジメント

第2回（講義）
薬物療法を受ける高齢者の看護
1. 加齢に伴う薬物動態の変化
2. 薬物療法による有害反応
3. 看護師が注意すべき高齢者と薬の関係

第3回（講義）
手術を受ける高齢者の看護
1. 術前の看護マネジメント
2. 術後の看護マネジメント
3. 高齢者に特徴的な手術
1）経尿道的前立腺切除術
2）超音波乳化吸引術+眼内レンズ挿入
3）経皮内視鏡的胃瘻造設術

第4回（講義）
1. 廃用症候群のアセスメントと看護
1）廃用症候群とは
2）廃用症候群の早期発見・予防に向けた看護
2. リハビリテーションを受ける高齢者の看護
1）高齢者にとってのリハビリテーションの意味
2）生活のリハビリテーション

第5回〔 校内実習 〕（演習・実技）
1. 摂食嚥下障害のある人への食事介助方法
2. 高齢者への与薬のケア
3. 口腔内を清潔にするための看護技術
4. ベッド上でできる下肢の運動
5. 下肢 MMT 測定
6. 弾性ストッキングの着用方法

第6～7回（講義）
1. 入院治療を受ける高齢者の看護
2. 高齢者とヘルスプロモーション
3. 保健医療福祉施設および居住施設における看護
4. エンドオブライフケアの概念
5. 意思決定への支援
6. 末期段階に求められる援助

第8回
科目終了試験
科目の振り返り</td></tr>
<tr><td>評価方法</td><td colspan="7">筆記試験（50 点）</td></tr>
<tr><td>テキスト</td><td colspan="7">1. 系統看護学講座　専門分野　老年看護学　（医学書院）
2. 看護実践のための根拠がわかる老年看護技術　（メヂカルフレンド社）</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td colspan="7"></td></tr>
<tr><td>備考
（メッセージ）</td><td colspan="7">健康障害をもつ高齢者が入院して検査・治療を受け退院するまでに必要な援助をしっかり学び、実習に臨んでください。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>科目区分</td><td>専門分野</td><td rowspan="2">講師名</td><td rowspan="2">院内講師</td><td rowspan="4">学年</td><td rowspan="4">2学年</td><td rowspan="4">履修期</td><td rowspan="4">1学期</td></tr>
<tr><td>授業科目</td><td>老年看護方法論Ⅰ
（加齢と健康障害）</td></tr>
<tr><td>単位・時間数</td><td>1単位・12/30時間</td><td rowspan="2">実務経験の有無</td><td rowspan="2">有</td></tr>
<tr><td>授業方法</td><td>講義</td></tr>
<tr><td>科目目標</td><td colspan="7">1. 老年期にある対象の身体的・精神的・社会的特徴を踏まえて、健康障害をもつ高齢者の主要な症状と治療方法を理解する。
2. 対象に合わせた看護を実践するためのアセスメントの視点や必要な援助について理解する。</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="7">第1回（講義）
脳卒中のある患者の看護
1. 病態生理・症状
2. 診断・治療
3. 看護の要点
1）急性期の看護
2）回復～維持期の看護

第2回（講義）
心不全患者の看護
1. 病態生理・症状
2. 診断・治療
3. 看護の要点
1）急性期の看護
2）回復～維持期の看護

第3回（講義）
肺炎患者の看護
1. 病態生理・症状
2. 診断・治療
3. 看護の要点
1）急性期の看護
2）回復～維持期の看護

第4回（講義）
骨粗鬆症
1. 病態生理・症状
2. 診断・治療
3. 看護の要点
1）急性期の看護
2）回復～維持期の看護

第5回（講義）
褥瘡のある患者の看護
1. 定義・発生機序
2. 看護の要点
1）リスクアセスメント
2）評価ツール
3）褥瘡の予防

第6回（講義）
認知機能の障害に対する看護
1. うつ
1）高齢者の抑うつ症状の特徴
2）うつのアセスメントと看護
2.せん妄
1）臨床的特徴
2）せん妄のリスク要因
3）看護の要点
（1）予防するための看護
（2）早期発見</td></tr>
<tr><td>評価方法</td><td colspan="7">筆記試験</td></tr>
<tr><td>テキスト</td><td colspan="7">1. 系統看護学講座　専門分野　老年看護学　（医学書院）
2. 看護実践のための根拠がわかる老年看護技術　（メヂカルフレンド社）</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td colspan="7"></td></tr>
<tr><td>備考
（メッセージ）</td><td colspan="7">講義の中では、特に認知症を理解することが大変難しいと思います。実際、臨床では認知症の患者と関わることも多いと思います。まずは、基本的な知識をもち、対象に合わせた看護ができるよう学習を深め、自己研鑽して下さい。</td></tr>
<tr><td>科目区分</td><td>専門分野</td><td>講師名</td><td>院内講師</td><td>学</td><td>2学年</td><td>履</td><td>1学期</td></tr>
</table>

授業科目	老年看護方法論Ⅰ （加齢と健康障害）			年		修期	
単位・時間数	1単位・2/30時間	実務経験の有無	有				
授業方法	講義						
科目目標	1. 老年期にある対象の身体的・精神的・社会的特徴を踏まえて、健康障害をもつ高齢者の主要な症状と治療方法を理解する。 2. 対象に合わせた看護を実践するためのアセスメントの視点や必要な援助について理解する。						
授業計画	第1回（講義） 認知症患者の看護 1. 基礎知識 2.認知症の評価 3. 看護の実際 1）環境づくり 2）日常生活ケア 3）BPSDへの対応						
評価方法	筆記試験						
テキスト	1. 系統看護学講座　専門分野　老年看護学　（医学書院） 2. 看護実践のための根拠がわかる老年看護技術　（メヂカルフレンド社）						
参考書							
備考 （メッセージ）	講義の中では、特に認知症を理解することが大変難しいと思います。実際、臨床では認知症の患者と関わることも多いと思います。まずは、基本的な知識をもち、対象に合わせた看護ができるよう学習を深め、自己研鑽して下さい。						

科目区分	専門分野	講師名	専任教員	学	2学年	履	1学期

授業科目	老年看護方法論Ⅱ （老年看護技術）			年		修 期	
単位・時間数	1単位・16/30 時間	実務経験の 有無	有				
授業方法	講義 ・ 演習 ・ 実技						
科目目標	1. 老年期にある対象の身体的・精神的・社会的特徴を踏まえたうえで、対象の日常生活援助に必要な知識を理解する。 2. 老年期にある対象の特徴を踏まえた上での看護技術が実践する。						
授業計画	第1回（講義） 高齢者の生活機能を整える看護技術 日常生活を支える基本的活動 基本動作と環境のアセスメントと看護 第2回（講義） 生活リズム 睡眠の基礎知識 高齢者の活動と睡眠のバランスの必要性 精神的・社会的活動と睡眠への援助 第3回（講義） コミュニケーション 高齢者とのコミュニケーションの特徴と関わり方 高齢者に起こりやすいコミュニケーション障害と看護 第4回〔校内実習〕（実技・演習） コミュニケーション 高齢者とのコミュニケーション 第5回〔校内実習〕（演習） レクリエーション活動 第6・7回（講義） 高齢者の事故防止に関する援助 転倒予防 高齢者が転倒しやすい要因・背景・特徴 転倒予防のためのアセスメント 転倒予防のための援助（環境整備等） 転倒が発生したときの看護 誤嚥・窒息の予防 嚥下障害の病態生理 嚥下障害に対する看護 窒息時の対応 その他の不慮の事故 第8回 科目終了試験 科目の振り返り						
評価方法	筆記試験（50点）						
テキスト	1. 系統看護学講座　専門分野　老年看護学　（医学書院） 2. 看護実践のための根拠がわかる老年看護技術　（メヂカルフレンド社）						
参考書							
備考 （メッセージ）	校内実習や演習が主になります。体験を通して高齢者の思いを考え、配慮ができるように学習して下さい。						

科目区分	専門分野	講師名	専任教員	学	2学年	履	1学期

<table>
<tr><td>授業科目</td><td>老年看護方法論Ⅱ
（老年看護技術）</td><td></td><td></td><td rowspan="3">年</td><td rowspan="3"></td><td rowspan="3">修
期</td><td rowspan="3"></td></tr>
<tr><td>単位・時間数</td><td>1単位・14/30 時間</td><td>実務経験の
有無</td><td rowspan="2">有</td></tr>
<tr><td>授業方法</td><td>講義 ・ 演習 ・ 実技</td></tr>
<tr><td>科目目標</td><td colspan="7">1. 老年期にある対象の身体的・精神的・社会的特徴を踏まえたうえで、対象の日常生活援助に必要な知識を理解する。
2. 老年期にある対象の特徴を踏まえた上での看護技術が実践する。</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="7">第1回（講義）
食事・食生活
栄養障害の要因とアセスメント
栄養・食事の援助
高齢者の脱水の特徴
脱水の予防と看護

第2・3回〔校内実習〕（実技）
食事・食生活
高齢者に対する食事介助
経管栄養時の援助

第4回（講義・演習）
排泄
排尿・排便障害のアセスメントと看護
適切な排泄方法の選択と援助

第5・6回〔校内実習〕（実技）
清潔
予防的スキンケア
おむつ交換とスキンテア

第7回〔校内実習〕（実技）
清潔
口腔ケアの方法と義歯の取り扱い</td></tr>
<tr><td>評価方法</td><td colspan="7">筆記試験（50点）</td></tr>
<tr><td>テキスト</td><td colspan="7">1. 系統看護学講座　専門分野　老年看護学　（医学書院）
2. 看護実践のための根拠がわかる老年看護技術　（メヂカルフレンド社）</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td colspan="7"></td></tr>
<tr><td>備考
（メッセージ）</td><td colspan="7">校内実習や演習が主になります。体験を通して高齢者の思いを考え、配慮ができるように学習して下さい。</td></tr>
</table>

科目区分	専門分野	講師名	専任教員	学年	2学年	履修期	1学期
授業科目	老年看護方法論・演習						
単位・時間数	1単位・30時間	実務経験の有無	有				
授業方法	講義・演習						
科目目標	1. 老年期の発達課題や特徴を踏まえ、安全を守り、安静の弊害を予防するための看護が理解できる。 2. 急性心筋梗塞を発症した患者の急性期から回復期に起こりやすい症状や処置に対する看護が理解できる。 3. 退院後の再発防止に向けた看護が理解できる。						
授業計画	第1回(講義) 1. 演習の進め方および事例の紹介 2. 老年期にある急性心筋梗塞患者の理解 第2～5回(講義・演習) 1. 老年期にある急性心筋梗塞患者の急性～回復期に必要な援助 1)情報の整理 2)アセスメント分析 3)関連図 第6～7回(講義・演習) 1. 急性～回復期に起こりやすい合併症と老年期の特徴をふまえた看護計画の立案 第8回(講義・演習) 1. 心臓リハビリテーションを進めるうえで考慮すべき合併症と老年期の特徴をふまえた看護計画の立案 第9～12回〔校内演習を含む〕(講義・演習) 1. 急性心筋梗塞患者の急性～回復期における看護援助の実際 1)看護援助の実施・評価、リフレクション 2)看護計画の修正 第13～15回(講義・演習) 1. 回復期から退院に向けての看護 1)退院支援						
評価方法	ルーブリック評価 100%						
テキスト	1. 系統看護学講座　専門分野　成人看護学[3]　循環器　(医学書院) 2. 系統看護学講座　専門分野　老年看護学　(医学書院) 3. 系統看護学講座　専門基礎分野　疾病の成り立ちと回復の促進[2]　病態生理学　(医学書院) 4. 治療薬マニュアル						
参考書	各自購入した疾患別看護過程の本を活用しましょう。						
備考(メッセージ)	対象者をイメージして状況を捉え、文献を活用して看護援助が考えられるよう学習をしましょう。						

科目区分	専門分野	講師名	専任教員	学	2学年	履	1学期

授業科目	小児看護学概説			年		修期	
単位・時間数	1単位・15時間	実務経験の有無	有				
授業方法	講義						

科目目標	1. 子どもと家族の概況や倫理的視点から小児看護の役割と課題を理解する。 2. 各期の子どもの成長・発達、家族の特徴について理解する。 3. 子どもと家族を取り巻く社会について理解する。
授業計画	第1回 小児看護の特徴と理念 1. 小児看護の目ざすところ 1)小児看護の対象 2)小児看護の目標と役割 2. 小児看護の変遷 1)小児医療・小児看護の変遷 3. 小児看護における倫理 1)子どもの権利 2)医療現場でおこりやすい問題点と看護 4. 小児看護の課題 第2回 子どもの成長・発達 1. 成長・発達とは 1)小児看護における発達論 2)小児期の発達段階の区分 3)発達の領域 2. 成長・発達の進み方(一般的原則) 1)方向性・順序性 2)発達の時期 3)成熟と学習 3. 成長・発達に影響する因子 4. 成長の評価 5. 発達の評価 1)発達評価の目的 2)発達評価の方法 第3回 新生児・乳児期・幼児期の成長・発達(1) 1. 形態的特徴 2. 身体生理の特徴 3. 感覚機能 4. 運動機能 第4回 新生児・乳児期・幼児期の成長・発達(2) 1. 知的機能 2. コミュニケーション機能 3. 情緒・社会的機能 4. 愛着形成 第5回 学童期、思春期、青年期の成長・発達 1. 形態的特徴 2. 身体生理の特徴 3. 知的・情緒的・社会機能 第6回 1. 家族の特徴とアセスメント 1)家族とは 2)現代家族の特徴 3)家族アセスメント 2. 子どもと家族を取り巻く社会(1) 1)児童福祉 2)母子保健 第7回 1. 子どもと家族を取り巻く社会(2) 1)医療費の支援 2)予防接種 3)学校保健 4)特別支援教育 5)臓器移植法 第8回 科目終了試験
評価方法	筆記試験 (100 点)
テキスト	1. 系統看護学講座 専門分野 小児看護学[1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論 (医学書院) 2. 国民衛生の動向 (厚生統計協会) 2023/2024
備考 (メッセージ)	少子化、核家族化などの中で小児と接する機会が少なくなってきています。まずは、日頃から新聞やニュースなどで、子どもと家族が置かれている状況に関心をもってもらいたいと考えます。小児期は、人間の成長発達にとって重要な時期であることを理解し、子どもの成長発達の特徴と発達課題をふまえながら、小児看護学について学びを深めていきましょう。そして、子どもを一人の人間として尊重して関わることの重要性を理解してもらいたいと考えます。

科目区分	専門分野	講師名	院内講師	学	2学年	履	1学期

<table>
<tr><td>授業科目</td><td>小児看護方法論Ⅰ
(健康障害児の理解)</td><td></td><td></td><td rowspan="3">年</td><td rowspan="3"></td><td rowspan="3">修
期</td><td rowspan="3"></td></tr>
<tr><td>単位・時間数</td><td>1単位・10/30時間</td><td rowspan="2">実務経験
の有無</td><td rowspan="2">有</td></tr>
<tr><td>授業方法</td><td>講義</td></tr>
<tr><td>科目目標</td><td colspan="7">1.　主な子どもの疾患の特徴とその病態や検査・治療方法を学ぶ。</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="7">第1回
1. 染色体異常・胎内環境により発症する先天異常
1)出生前の診断方法
2)胎児診断がついた後の対応
3)おもな疾患

第２回
1. 新生児期に起こりやすい疾患の原因と治療
1)分娩損傷
2)頭蓋内出血
3)新生児メレナ
4)新生児黄疸
5)低出生体重児

第3回
1. 代謝性疾患の原因と治療
1)フェニルケトン尿症
2)ムコ多糖症
3)糖尿病

第4回
1. 循環器疾患の検査と治療
1)先天性心疾患
(1)心室中隔欠損症
(2)動脈管開存症
(3)ファロー四徴症
2)後天性心疾患
(1)心内膜炎
3)川崎病

第5回
科目終了試験
科目の振り返り</td></tr>
<tr><td>評価方法</td><td colspan="7">筆記試験(30 点)</td></tr>
<tr><td>テキスト</td><td colspan="7">1. 系統看護学講座　専門分野　小児看護学[2]　小児臨床看護各論　(医学書院)</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td colspan="7"></td></tr>
<tr><td>備考
(メッセージ)</td><td colspan="7">赤ちゃんといえども特別なものではなく、ヒトの一生の一時期であり、医療に携わる者として年齢による対応に違いがあってはいけません。授業は講義形式で、臨床での事例を踏まえながら、内容を分かりやすく説明します。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>科目区分</td><td>専門分野</td><td rowspan="2">講師名</td><td rowspan="2">院内講師</td><td rowspan="4">学年</td><td rowspan="4">2学年</td><td rowspan="4">履修期</td><td rowspan="4">1学期</td></tr>
<tr><td>授業科目</td><td>小児看護方法論Ⅰ
(健康障害児の理解)</td></tr>
<tr><td>単位・時間数</td><td>1単位・8/30時間</td><td rowspan="2">実務経験の有無</td><td rowspan="2">有</td></tr>
<tr><td>授業方法</td><td>講義</td></tr>
<tr><td>科目目標</td><td colspan="7">1.　主な子どもの疾患の特徴とその病態や検査・治療方法を学ぶ。</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="7">第1回
1. 内分泌疾患の検査と治療
1)尿崩症
2)低身長症
3)アジソン病
4)クッシング症候群
5)性分化疾患(DSD)

第2回
1. 呼吸器疾患
1)子どもの呼吸器疾患の特徴
2)子どもの主な呼吸器疾患
(かぜ症候群、クループ症候群、急性気管支炎、肺炎)

第3回
1. 消化器疾患
1)子どもの消化器疾患の特徴
2)子どもの主な消化器疾患
(急性乳幼児嘔吐下痢症、急性胃腸炎)

第4回
1. 腎・泌尿器および生殖器疾患
1)子どもの腎・泌尿器疾患の特徴
2)子どもの主な腎・泌尿器疾患
(ネフローゼ症候群、急性糸球体腎炎、慢性腎炎、 尿崩症)</td></tr>
<tr><td>評価方法</td><td colspan="7">筆記試験(30 点)</td></tr>
<tr><td>テキスト</td><td colspan="7">1. 系統看護学講座　専門分野　小児看護学[2]　小児臨床看護各論　(医学書院)</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td colspan="7"></td></tr>
<tr><td>備考
(メッセージ)</td><td colspan="7">講義形式で臨床事例を踏まえながら説明します。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>科目区分</td><td>専門分野</td><td rowspan="2">講師名</td><td rowspan="2">院内講師</td><td rowspan="4">学年</td><td rowspan="4">2学年</td><td rowspan="4">履修期</td><td rowspan="4">1学期</td></tr>
<tr><td>授業科目</td><td>小児看護方法論Ⅰ
(健康障害児の理解)</td></tr>
<tr><td>単位・時間数</td><td>1単位・2/30時間</td><td rowspan="2">実務経験の有無</td><td rowspan="2">有</td></tr>
<tr><td>授業方法</td><td>講義</td></tr>
<tr><td>科目目標</td><td colspan="7">1.　主な子どもの疾患の特徴とその病態や検査・治療方法を学ぶ。</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="7">第1回
1. 小児外科の代表的な疾患
1)腸重積症
2)鼠径ヘルニア
3)ヒルシュスプルング病
4)鎖肛
5)胆道閉鎖症
2. 特に重要な小児外科手術
1)外鼠径ヘルニア根治術
2)口唇・口蓋裂根治術
3)腸重積症の手術療法</td></tr>
<tr><td>評価方法</td><td colspan="7">筆記試験(10 点)</td></tr>
<tr><td>テキスト</td><td colspan="7">1. 系統看護学講座　専門分野　小児看護学[2]　小児臨床看護各論　(医学書院)</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td colspan="7"></td></tr>
<tr><td>備考
(メッセージ)</td><td colspan="7">講義形式で臨床事例を踏まえながら簡単にポイントのみを説明します。純粋な気持ちで看護を実践してもらいたいです。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>科目区分</td><td>専門分野</td><td rowspan="2">講師名</td><td rowspan="2">院内講師</td><td rowspan="4">学年</td><td rowspan="4">2学年</td><td rowspan="4">履修期</td><td rowspan="4">1学期</td></tr>
<tr><td>授業科目</td><td>小児看護方法論Ⅰ
(健康障害児の理解)</td></tr>
<tr><td>単位・時間数</td><td>1単位・10/30時間</td><td rowspan="2">実務経験の有無</td><td rowspan="2">有</td></tr>
<tr><td>授業方法</td><td>講義</td></tr>
<tr><td>科目目標</td><td colspan="7">1.　主な子どもの疾患の特徴とその病態や検査・治療方法を学ぶ。</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="7">第1回
1. 血液・造血器疾患
1)鉄欠乏性貧血
2)血友病・ビタミンＫ欠乏症
3)突発性血小板減少症・血管性紫斑病
4)好中球減少症

第2回
1. 悪性疾患
1)白血病
2)脳腫瘍
3)その他の固形腫瘍

第3
1. 神経疾患
1)小児の神経発達障害
2)二分脊椎・水頭症
3)けいれん性疾患
(熱性けいれん・てんかん)
4)もやもや病
5)脳性麻痺
6)筋ジストロフィー症
7)髄膜炎・脳炎

第4回
1. 精神疾患
1)精神遅滞
2)学習障害・広汎性発達障害・ADHD
3)チック病(トゥレッド症候群)
4)その他精神科疾患
5)不登校

第5回
1. 免疫・アレルギー疾患、膠原病
1)先天性免疫不全
2)小児気管支喘息
3)食物アレルギー(即時型、非即時型)
アレルギー検査
パッチテスト、プリックテスト
経口負荷試験
4)若年性関節リウマチ
2. 感染症
1)子どもの感染に関する基本的知識
2)子どもの主な感染症
(百日ぜき、流行性髄膜炎)</td></tr>
<tr><td>評価方法</td><td colspan="7">筆記試験(30 点)</td></tr>
<tr><td>テキスト</td><td colspan="7">1. 系統看護学講座　専門分野　小児看護学[2]　小児臨床看護各論　(医学書院)</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td colspan="7"></td></tr>
<tr><td>備考
(メッセージ)</td><td colspan="7">講義形式でテキストに沿って進めます。子ども達を好きになること(未熟児～中学生)、そして自分の頭で考えることを期待します。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>科目区分</td><td>専門分野</td><td rowspan="2">講師名</td><td rowspan="2">専任教員</td><td rowspan="4">学年</td><td rowspan="4">2学年</td><td rowspan="4">履修期</td><td rowspan="4">1学期</td></tr>
<tr><td>授業科目</td><td>小児看護方法論Ⅱ
(健康障害児の看護、
小児看護技術)</td></tr>
<tr><td>単位・時間数</td><td>1単位・14/30時間</td><td rowspan="2">実務経験の有無</td><td rowspan="2">有</td></tr>
<tr><td>授業方法</td><td>講義</td></tr>
<tr><td>科目目標</td><td colspan="7">1.　小児に特徴的な疾患をもった子どもの看護を理解する。</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="7">第1回
1. 免疫・アレルギー性疾患をもった子どもの看護
1)食物アレルギー
2)気管支喘息

第2回
1. 感染症をもった子どもの看護
1)麻疹
2)風疹
3)流行性耳下腺炎(ムンプス)
4)水痘
5)髄膜炎
6)百日咳

第3回
1.呼吸器疾患をもった子どもの看護
1)かぜ症候群
2)急性咽頭炎
3)クループ症候群
4)急性気管支炎
5)細気管支炎
6)肺炎

第4回
1. 循環器疾患をもった子どもの看護
1)ファロー四徴症
2)川崎病
2. 血液・造血器疾患をもった子どもの看護
1)特発性血小板減少性紫斑病

第5回
1. 消化器疾患をもった子どもの看護
1)腸重積症
2)外鼠径ヘルニア
(根治術後の看護を含む)
3)急性胃腸炎
2. 口唇・口蓋裂根治術を受けた子どもの看護

第 6 回
1. 神経疾患をもった子どもの看護
1)てんかん
2)熱性けいれん

第7回
科目終了試験
科目の振り返り</td></tr>
<tr><td>評価方法</td><td colspan="7">筆記試験(50 点)</td></tr>
<tr><td>テキスト</td><td colspan="7">1.　系統看護学講座　専門分野　小児看護学[2]　小児臨床看護各論　(医学書院)</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td colspan="7"></td></tr>
<tr><td>備考
(メッセージ)</td><td colspan="7">既習の小児疾患の学習を基礎として疾患および症状に対する看護の展開ができるよう事例を含めながら学習を進めます。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>科目区分</td><td>専門分野</td><td rowspan="2">講師名</td><td rowspan="2">専任教員</td><td rowspan="4">学年</td><td rowspan="4">2学年</td><td rowspan="4">履修期</td><td rowspan="4">1学期</td></tr>
<tr><td>授業科目</td><td>小児看護方法論Ⅱ
（健康障害児の看護、
小児看護技術）</td></tr>
<tr><td>単位・時間数</td><td>1単位・4/30時間</td><td rowspan="2">実務経験の有無</td><td rowspan="2">有</td></tr>
<tr><td>授業方法</td><td>講義・実技</td></tr>
<tr><td>科目目標</td><td colspan="7">疾病・障害が小児と家族に与える影響および小児における疾病の経過と看護について理解する。
症状を示す小児、検査・処置を受ける小児の看護を理解する。</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="7">第1～2回
1. 疾病・障害をもつ小児の日常生活援助技術
1)小児の年齢と理解に応じた抑制・環境調整・事故防止
2)哺乳・離乳食、乳幼児の自立度と病状に合わせた食事
3)乳幼児のオムツ交換、自立度に合わせた援助(トイレットトレーニング)
4)遊び・学習の援助、乳幼児の抱き方、乳幼児の移送
5)乳幼児の衣類の選択・交換、乳幼児の清潔法(清拭・部分浴)</td></tr>
<tr><td>評価方法</td><td colspan="7">筆記試験</td></tr>
<tr><td>テキスト</td><td colspan="7">1. 系統看護学講座　専門分野　小児看護学[1]　小児臨床看護概論　（医学書院）
2. 写真で分かる小児看護技術アドバンス　（インターメディカ）</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td colspan="7"></td></tr>
<tr><td>備考
(メッセージ)</td><td colspan="7">臨床での事例を踏まえながら、校内実習を取り入れ分かりやすく説明します。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>科目区分</td><td>専門分野</td><td rowspan="2">講師名</td><td rowspan="2">院内講師</td><td rowspan="4">学年</td><td rowspan="4">2学年</td><td rowspan="4">履修期</td><td rowspan="4">1学期</td></tr>
<tr><td>授業科目</td><td>小児看護方法論Ⅱ
（健康障害児の看護、
小児看護技術）</td></tr>
<tr><td>単位・時間数</td><td>1単位・12/30時間</td><td rowspan="2">実務経験の有無</td><td rowspan="2">有</td></tr>
<tr><td>授業方法</td><td>講義・実技</td></tr>
<tr><td>科目目標</td><td colspan="7">疾病・障害が小児と家族に与える影響および小児における疾病の経過と看護について理解する。
症状を示す小児、検査・処置を受ける小児の看護を理解する。</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="7">第1回
1. 子どもにおける疾病の経過と看護
1）慢性期にある子どもと家族の看護
2）急性期にある子どもと家族の看護
3）周手術期の子どもと家族の看護
4）終末期の子どもと家族の看護

第2回
1. 症状を示す小児の看護
1）痛み
2）呼吸困難
3）発熱
4）嘔吐・下痢
5）脱水
6）発疹

第3～4回
1. 検査・処置を受ける子どもの看護
（プレパレーション・ディストラクション含む）
1）乳幼児のバイタルサイン測定
2）検査・処置
（採尿、採血、腰椎穿刺、酸素療法、吸入、
吸引）時の援助
3）薬物療法
（薬物動態と薬液量、座薬、経口与薬方法）
4）診察介助
5）小児の気道開通法と蘇生法

第5～6回
1. 子どもに合わせた援助の実際〔校内実習〕
1）乳幼児のバイタルサイン測定
2）検査・処置の看護
（採尿、吸入、吸引）
3）薬物療法
（点滴静脈内注射）</td></tr>
<tr><td>評価方法</td><td colspan="7">筆記試験</td></tr>
<tr><td>テキスト</td><td colspan="7">1. 系統看護学講座　専門分野　小児看護学[1]　小児臨床看護概論　（医学書院）
2. 写真で分かる小児看護技術アドバンス　（インターメディカ）</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td colspan="7"></td></tr>
<tr><td>備考
（メッセージ）</td><td colspan="7">臨床での事例を踏まえながら、校内実習を取り入れ分かりやすく説明します。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>科目区分</td><td>専門分野</td><td rowspan="2">講師名</td><td rowspan="2">専任教員</td><td rowspan="4">学年</td><td rowspan="4">2学年</td><td rowspan="4">履修期</td><td rowspan="4">2学期</td></tr>
<tr><td>授業科目</td><td>小児看護方法論・演習</td></tr>
<tr><td>単位・時間数</td><td>1単位・11/30時間</td><td rowspan="2">実務経験の有無</td><td rowspan="2">有</td></tr>
<tr><td>授業方法</td><td>講義・演習・実技</td></tr>
<tr><td>科目目標</td><td colspan="7">1.　ネフローゼ症候群に罹患した子どもへの看護を学ぶ。</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="7">〈ネフローゼ症候群の学童児の看護〉
第1回
1. ネフローゼ症候群の理解
2. ネフローゼ症候群の看護
1)急性期の看護
(1)症状の観察
(2)食事療法
(3)薬物療法
(4)安静療法
(5)病気と治療の説明
2)回復期の看護
(1)症状の観察と看護
(2)脱水予防と水分出納の観察と管理
(3)ステロイド減量に対する援助
(4)再発予防
(5)ADL の拡大
3)退院指導
(1)過労を避ける生活指導
(2)服薬指導
(3)家族への援助

第2回
1. 事例からの看護過程の展開(1)
1)情報の整理
2)気になる情報
3)全体像の把握

第3回
1. 事例からの看護過程の展開(2)
1)問題点の明確化
2)看護計画立案

第4回
1. 援助の実際(1)
1)危険予見と環境整備
2)プレパレーション
3)子どもの理解度に合わせたかかわり
4)身体計測
5)子ども・家族とのコミュニケーション

第5回
1. 援助の実際(2)［校内実習］
1)プレパレーションの実際

第6回
科目終了試験　科目の振り返り</td></tr>
<tr><td>評価方法</td><td colspan="7">筆記試験(100 点)</td></tr>
<tr><td>テキスト</td><td colspan="7">1. 系統看護学講座　専門分野　小児看護学[1]　小児臨床看護概論　(医学書院)
2. 系統看護学講座　専門分野　小児看護学[2]　小児臨床看護各論　(医学書院)
3. 写真で分かる小児看護技術アドバンス　(インターメディカ)</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td colspan="7">1. 疾患別看護過程の展開　(学研)
2. 系統看護学講座　専門分野　成人看護学[8]　腎・泌尿器　(医学書院)</td></tr>
<tr><td>備考
(メッセージ)</td><td colspan="7">疾患の理解をふまえた上で、臨床での実施につながるように校内実習を組み入れます。皆さん、積極的に学習に臨んでください。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>科目区分</td><td>専門分野</td><td rowspan="2">講師名</td><td rowspan="2">専任教員</td><td rowspan="4">学年</td><td rowspan="4">2学年</td><td rowspan="4">履修期</td><td rowspan="4">2学期</td></tr>
<tr><td>授業科目</td><td>小児看護方法論・演習</td></tr>
<tr><td>単位・時間数</td><td>1単位・19/30 時間</td><td rowspan="2">実務経験の有無</td><td rowspan="2">有</td></tr>
<tr><td>授業方法</td><td>講義 ・ 演習 ・ 実技</td></tr>
<tr><td>科目目標</td><td colspan="7">1. 患児を取り巻く環境、成長発達、家族介護者の疲労、健康レベルをふまえ急性リンパ性白血病患児と家族への看護を理解する。
2. 事例を展開し、倫理的感受性と倫理的判断の方法論をふまえた患児の権利を擁護する援助方法を理解する。</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="7">〈急性リンパ性白血病の幼児の看護〉
第1回(講義)
1. 急性リンパ性白血病の子どもと家族の看護
1) 診断時の看護
(1)症状のアセスメントの身体的苦痛の緩和
(2)診断的検査を受ける子どもの看護
(3)子どもへの病気説明
(4)家族への援助
(5)入院生活適応への援助
2) 治療を受ける子どもの看護
(1)化学療法を受ける子どもの看護
(2)放射線療法を受ける子どもの看護
(3)手術を受ける子どもの看護
(4)造血幹細胞移植を受ける子どもの看護
3) 入院から退院、自宅での生活への移行時期の看護
4) 再燃・再発時の看護
5) 長期フォローアップにおける看護

第2回(講義)
1. 小児看護における看護過程の概要
1) 事例からの看護展開
(1)疾患や治療による骨髄抑制の程度
(2)治療の副作用と栄養摂取状況
(3)入院から治療の必要性に対する患児と家族の捉え方
(4)健康管理行動に関する技能
(5)入院や疾患・治療から起こりうる不安の内容
(6)治療後のボディイメージのとらえ方
(7)入院に伴うストレスとコーピング
(8)家族やサポート体制
2) 患児の成長・発達段階をふまえたアセスメントの視点
(1)疾患に対する看護
(2)入院の影響
(3)安全への看護
(4)家族看護

第3～5 回(講義・個人ワーク)
1. 患児の成長・発達段階をふまえたアセスメントの視点
1) 疾患に対する看護
2) 入院の影響
3) 安全への看護
4) 家族看護
2. 情報収集・アセスメント分析

第 6 回(講義・個人ワーク)
1. 全体像と看護問題の統合
2. 看護問題の明確化

第7回(講義・個人ワーク)
1. 看護計画の立案

第 8～9 回(シミュレーション演習)
1. 急性リンパ性白血病患児の状態に応じた看護の実際
1) 臨床判断の実際
(1)目の前の患児の状況に気づく
(2)気づき行動にうつす
(3)患児の反応や変化をとらえ、振り返る

第 10 回 (個人ワーク)
1. 患児の権利を擁護するための援助方法の理解</td></tr>
<tr><td>評価方法</td><td colspan="7">ルーブリック評価 100%</td></tr>
<tr><td>テキスト</td><td colspan="7">1. 系統看護学講座 専門分野 小児看護学[2] 小児臨床看護各論 (医学書院)
2. 系統看護学講座 専門分野 小児看護学[1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論(医学書院)</td></tr>
<tr><td>備考
(メッセージ)</td><td colspan="7">看護過程を展開していく中で、「いつ、どこで、どのような知識を、どのように活用しなければならないか」を常に考え、既習の知識を駆使し、テキストや資料を活用し、講義・個人ワークに取り組んでください。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>科目区分</td><td>専門分野</td><td rowspan="2">講師名</td><td rowspan="2">院内講師</td><td rowspan="4">学年</td><td rowspan="4">2学年</td><td rowspan="4">履修期</td><td rowspan="4">1学期</td></tr>
<tr><td>授業科目</td><td>母性看護方法論Ⅰ
(妊娠・分娩・産褥期の看護)</td></tr>
<tr><td>単位・時間数</td><td>1単位・12/30 時間</td><td rowspan="2">実務経験の有無</td><td rowspan="2">有</td></tr>
<tr><td>授業方法</td><td>講義</td></tr>
<tr><td>科目目標</td><td colspan="7">1. 妊娠の生理を理解し、身体的・心理的・社会的特性について理解する。
2. 妊娠期における母子の看護を理解する。</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="7">第1回
妊娠期の身体的特性
1)妊娠の生理
2)胎児の発育とその生理
3)母体の生理的変化

第2・3回
妊婦体験及びディスカッション

第4回
妊娠期の心理・社会的特性
1)妊婦の心理
2)妊婦と家族および社会

第5回
妊婦と胎児のアセスメント
1)妊娠とその診断
2)妊娠期に行う検査とその目的
3)胎児の発育と健康状態の診断
4)妊婦と胎児の経過の診断とアセスメント

第 6 回
妊婦と家族の看護
1)妊婦がうける母子保健サービス</td></tr>
<tr><td>評価方法</td><td colspan="7">筆記試験(40 点)</td></tr>
<tr><td>テキスト</td><td colspan="7">1. 系統看護学講座　専門分野　母性看護学[2]　母性看護学各論　(医学書院)</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td colspan="7">必要に応じて講義の際に教材として資料を配布する</td></tr>
<tr><td>備考
(メッセージ)</td><td colspan="7">少子化の進む時代の中で、“子どもを産み育てていく”ことの一歩としては、母子一体として考えて欲しいと思います。妊娠期においては、妊婦が妊娠期から分娩期へと不安なく準備できるような「支援」「相談」「教育」が大切になります。そのために、妊娠期の身体的・精神的・社会的特徴や変化について疑似体験を通してしっかりと考え、学んで欲しいと思います。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>科目区分</td><td>専門分野</td><td rowspan="2">講師名</td><td rowspan="2">院内講師</td><td rowspan="4">学年</td><td rowspan="4">2学年</td><td rowspan="4">履修期</td><td rowspan="4">1学期</td></tr>
<tr><td>授業科目</td><td>母性看護方法論Ⅰ
(妊娠・分娩・産褥期の看護)</td></tr>
<tr><td>単位・時間数</td><td>1単位・8/30 時間</td><td rowspan="2">実務経験の有無</td><td rowspan="2">有</td></tr>
<tr><td>授業方法</td><td>講義</td></tr>
<tr><td>科目目標</td><td colspan="7">1. 分娩期の経過に伴う身体的・心理的・社会的変化を理解する。
2. 分娩期における母子の看護を理解する。</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="7">第1回
分娩の要素
1)分娩とは
2)分娩の 3 要素
3)胎児と子宮及び骨盤との関係
4)分娩の機序
分娩の経過
1)分娩の進行と産婦の身体的変化
2)分娩期の産婦の心理社会的変化

第2回
産婦・胎児、家族のアセスメント
1)産婦と胎児の健康状態のアセスメント
(1)基礎的情報
(2)分娩経過のアセスメント
(3)分娩進行に伴う反応のアセスメント
(4)基本的ニードに関するアセスメント
2)産婦と家族の心理・社会面のアセスメント
(1)母親役割獲得準備状態についてのアセスメント
(2)家族関係についてのアセスメント

第3回
産婦と家族の看護
1)看護目標と産婦のニード
2)安全分娩への看護
3)安楽な分娩への看護
4)よいお産になるための看護
5)基本的ニードに関する看護
6)家族発達を促す看護
分娩期の看護の実際
子宮内環境のアセスメント(胎児付属物の観察)

第4回
科目終了試験
科目の振り返り</td></tr>
<tr><td>評価方法</td><td colspan="7">筆記試験(25 点)</td></tr>
<tr><td>テキスト</td><td colspan="7">1. 系統看護学講座　専門分野　母性看護学[2]　母性看護学各論　(医学書院)
2. カラー写真で学ぶ周産期の看護技術　(医歯薬出版)</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td colspan="7">必要に応じて講義の際に教材として資料を配布する</td></tr>
<tr><td>備考
(メッセージ)</td><td colspan="7">正常分娩の進行、経過および分娩の進行に伴う産婦・家族の心理的変化と産婦の身体的変化について知識を習得し、分娩の進行に沿ったアセスメントの視点、援助の実際が理解できるようにして欲しいと思います。特に分娩第1期から第 4 期までの正常な経過をしっかりと学習して欲しいと思います。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>科目区分</td><td>専門分野</td><td rowspan="2">講師名</td><td rowspan="2">院内講師</td><td rowspan="4">学年</td><td rowspan="4">2学年</td><td rowspan="4">履修期</td><td rowspan="4">1学期</td></tr>
<tr><td>授業科目</td><td>母性看護方法論Ⅰ
(妊娠・分娩・産褥期の看護)</td></tr>
<tr><td>単位・時間数</td><td>1単位・10/30 時間</td><td rowspan="2">実務経験の有無</td><td rowspan="2">有</td></tr>
<tr><td>授業方法</td><td>講義 ・ 実技</td></tr>
<tr><td>科目目標</td><td colspan="7">1. 産褥期の経過に伴う身体的・心理的・社会的変化を理解する。
2. 産褥期における母子の看護および保健指導を理解する。</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="7">第1回(講義)
産褥期の身体的変化
1)産褥の定義
2)子宮の復古と悪露
3)乳汁分泌
4)月経の発来
5)全身の変化

第2回(講義)
産褥期の心理・社会的な変化
1)褥婦の心理的変化
2)家族の心理的変化
3)ソーシャルサポート

第3回(講義)
褥婦のアセスメント
1)産褥経過の診断
2)褥婦の健康状態のアセスメント

第4回〔校内実習〕(講義・実技)
褥婦と家族の看護
1)身体機能の回復及び進行性変化への看護
2)児との関係確立への看護
3)育児にかかわる看護
4)家族関係再構築への看護

第5回(実技)
退院後の生活を円滑に進めるための保健指導
1)産褥体操
2)母乳育児
3)貧血
4)社会資源</td></tr>
<tr><td>評価方法</td><td colspan="7">筆記試験(35 点)</td></tr>
<tr><td>テキスト</td><td colspan="7">1. 系統看護学講座 専門分野 母性看護学[2] 母性看護学各論 (医学書院)
2. カラー写真で学ぶ周産期の看護技術 (医歯薬出版)
3. 天使のほほえみ</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td colspan="7">必要に応じて講義の際に教材として資料を配布する</td></tr>
<tr><td>備考
(メッセージ)</td><td colspan="7">授業の進め方は、講義が中心になります。疑問に思ったことはどんどん質問してください。
実習では、褥婦の状態をアセスメントして看護を実践していきます。授業で学んだことを活かせるように学習をして欲しいと思います。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>科目区分</td><td>専門分野</td><td rowspan="3">講師名</td><td rowspan="3">院内講師</td><td rowspan="4">学年</td><td rowspan="4">2学年</td><td rowspan="4">履修期</td><td rowspan="4">1学期</td></tr>
<tr><td>授業科目</td><td>母性看護方法論Ⅱ
(母性看護技術・
異常妊娠の理解)</td></tr>
<tr><td>単位・時間数</td><td>1単位・10/30 時間</td><td rowspan="2">実務経験の
有無</td><td rowspan="2">有</td></tr>
<tr><td>授業方法</td><td>講義 ・ 実技</td></tr>
<tr><td>科目目標</td><td colspan="7">1. 胎児から新生児への生理的変化、新生児の身体機能について理解する。
2. 新生児の診断・発育の評価について理解する。
3. 新生児の健康状態のアセスメント及び新生児看護を理解する。</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="7">第1回(講義)
新生児の生理
1)新生児とは
2)新生児の機能

第2回(講義)
新生児のアセスメント
1)新生児の診断
2)新生児の健康状態のアセスメント
新生児の看護
1)出生直後の看護
2)出産後から退院時までの看護
消化管出血・頭蓋内出血予防の看護
(ビタミン K2 シロップの与薬)
新生児の事故
(転落・窒息・熱傷・児の取り違え)予防
3)生後 1 カ月健康診査に向けた退院時の看護

第3回〔校内実習〕(実技)
新生児の看護
1)オムツ交換
2)沐浴
3)清拭、臍処置

第4回(講義)
新生児の異常と看護
1)低出生体重児の看護
2)高ビリルビン血症児の看護

第5回
科目終了試験
科目の振り返り</td></tr>
<tr><td>評価方法</td><td colspan="7">筆記試験(30 点)</td></tr>
<tr><td>テキスト</td><td colspan="7">1. 系統看護学講座 専門分野 母性看護学[2] 母性看護学各論 (医学書院)
2. カラー写真で学ぶ周産期の看護技術 (医歯薬出版)</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td colspan="7">必要に応じて講義の際に教材として資料を配布する</td></tr>
<tr><td>備考
(メッセージ)</td><td colspan="7">新生児が胎外生活に適応できているか、愛着行動はどうか、新生児の生理的特徴をふまえた観察及び正常・異常を判断するためのアセスメント能力を養って欲しいと思います。また、新生児に必要な検査・処置・治療における看護師の役割についても理解して欲しいと思います。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>科目区分</td><td>専門分野</td><td rowspan="2">講師名</td><td rowspan="2">院内講師</td><td rowspan="4">学年</td><td rowspan="4">2学年</td><td rowspan="4">履修期</td><td rowspan="4">1学期</td></tr>
<tr><td>授業科目</td><td>母性看護方法論Ⅱ
(母性看護技術・
異常妊娠の理解)</td></tr>
<tr><td>単位・時間数</td><td>1単位・10/30 時間</td><td rowspan="2">実務経験の
有無</td><td rowspan="2">有</td></tr>
<tr><td>授業方法</td><td>講義 ・演習 ・ 実技</td></tr>
<tr><td>科目目標</td><td colspan="7">1. 妊娠期における身体的・心理的・社会的特徴をふまえた情報収集やアセスメントを理解する。
2. 妊娠期の看護が理解できるように、グループ学習にて妊娠期の保健指導案を作成する。</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="7">第1・2回(講義)
妊婦の保健相談の実際
1)食生活
2)排泄
3)清潔
4)衣生活
5)活動と休息
6)妊婦の勤労
7)性生活
8)マイナートラブル
(産前教育を含む)の実際

第3回(講義・演習)
親になるための準備教育
1)分娩準備教育
2)育児準備のための保健相談
3)家族役割調整のための保健相談

第4回〔校内実習〕(実技)
妊娠中期および後期における診察法・
保健指導
1)レオポルド触診法
2)児心音聴取
3)着帯

第5回(講義・演習)
保健指導案(集団指導)の発表
1)つわり
2)妊娠貧血
3)着帯・妊婦体操
4)妊婦高血圧症候群
5)体重コントロール
6)乳房の手入れと出産準備</td></tr>
<tr><td>評価方法</td><td colspan="7">筆記試験(35 点)</td></tr>
<tr><td>テキスト</td><td colspan="7">1. 系統看護学講座 専門分野 母性看護学[2] 母性看護学各論 (医学書院)
2. カラー写真で学ぶ周産期の看護技術 (医歯薬出版)</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td colspan="7">必要に応じて講義の際に教材として資料を配布する</td></tr>
<tr><td>備考
(メッセージ)</td><td colspan="7">既習の授業などの基礎知識は確実に復習しておいて下さい。自分自身が妊婦であればどういう看護がされたいか追体験するようにして欲しいと思います。グループ学習は学生が主体的に役割分担して行うようにして下さい。
グループワークでは、保健指導案作成とロールプレイングを行います。発表会では、各グループ毎の保健指導案の発表と意見交換(1グループ 10 分以内、評価2分以内、意見交換 10 分)を行います。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>科目区分</td><td>専門分野</td><td rowspan="2">講師名</td><td rowspan="2">院内講師</td><td rowspan="4">学年</td><td rowspan="4">2学年</td><td rowspan="4">履修期</td><td rowspan="4">1学期</td></tr>
<tr><td>授業科目</td><td>母性看護方法論Ⅱ
（母性看護技術・
異常妊娠の理解）</td></tr>
<tr><td>単位・時間数</td><td>1単位・10/30 時間</td><td rowspan="2">実務経験の
有無</td><td rowspan="2">有</td></tr>
<tr><td>授業方法</td><td>講義</td></tr>
<tr><td>科目目標</td><td colspan="7">1. 正常な妊娠・分娩・産褥過程に影響を及ぼす可能性のある病態について理解する。</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="7">第1～2回
妊娠の異常（ハイリスク妊娠）
1）妊娠貧血
2）糖代謝異常合併妊娠
3）妊娠期の感染症
4）妊娠悪阻
5）妊娠高血圧症候群
6）多胎妊娠
7）流産・早産
8）高齢妊娠

第3～4回
分娩の異常
1）常位胎盤早期剥離、前置胎盤
2）児頭骨盤不均衡
3）胎位異常
4）肩甲難産
5）胎児機能不全
6）帝王切開術
7）弛緩出血

第5回
産褥の異常
1）子宮復古不全
2）産褥期の発熱
4）産褥血栓症
5）産褥期精神障害
6）死産</td></tr>
<tr><td>評価方法</td><td colspan="7">筆記試験（35 点）</td></tr>
<tr><td>テキスト</td><td colspan="7">1. 系統看護学講座　専門分野　母性看護学[2]　母性看護学各論　（医学書院）</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td colspan="7">必要に応じて講義の際に教材として資料を配布する</td></tr>
<tr><td>備考
（メッセージ）</td><td colspan="7">国家試験等でよく出る範囲です。しっかりと基礎知識を学習して下さい。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>科目区分</td><td>専門分野</td><td rowspan="2">講師名</td><td rowspan="2">院外講師</td><td rowspan="4">学年</td><td rowspan="4">2学年</td><td rowspan="4">履修期</td><td rowspan="4">2学期</td></tr>
<tr><td>授業科目</td><td>母性看護方法論・演習</td></tr>
<tr><td>単位・時間数</td><td>1単位・21/30 時間</td><td rowspan="2">実務経験の有無</td><td rowspan="2">有</td></tr>
<tr><td>授業方法</td><td>講義・演習・実技</td></tr>
<tr><td>科目目標</td><td colspan="7">妊娠・分娩・産褥期における正常な経過の事例展開を通して、ウェルネス志向の考え方で母性看護を理解できる。</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="7">《事例:20 歳代、正常分娩、貧血があり食事・薬物療法を受ける妊婦・産婦・褥婦の看護》

第1回～ 2回
1. 母性看護対象者の特徴と看護の視点
1) ヘルスプロモーション
2) 母性看護でのエンパワメントアプローチ
3) 母性看護でのセルフケア
4) ウェルネスの考え方の特徴
5) マタニティサイクルにおける母性看護学の視点
2. 妊娠期アセスメントの視点
1) 妊婦の健康状態
2) 全身状態
3) 生理的変化に伴う不快症状
4) 妊婦合併症
5) 胎児の発育・健康状態
6) 妊婦の日常生活
3. 妊婦のアセスメントの実際

第3～ 4回
1. 分娩期のアセスメントの視点
1) 分娩第1期
2) 分娩第2期
3) 分娩第3期、第4期
2. 産婦のアセスメントの実際

第5回～ 6回
1. 褥婦と新生児のアセスメント
1) 産褥期のアセスメントの視点
(1) 全身の回復状態
(2) 生殖器の復古
(3) 母児の関係性の形成
(4) 親役割獲得過程
(5) 家族役割獲得
2) 新生児のアセスメントの視点
(1) 胎外生活への適応
(2) 養護と授乳状況
(3) 親子関係・家族関係
2. 産褥期、新生児のアセスメントの実際

第7回～ 8回
全体像の把握 (関連図)
看護計画の立案

第9回～ 10回
保健指導案作成のポイント

第11回〔校内実習〕
保健指導の実際</td></tr>
<tr><td>評価方法</td><td colspan="7">授業態度(10 点)　記録物(40 点)　グループワーク内容(30 点)　グループワーク参加度(20 点)</td></tr>
<tr><td>テキスト</td><td colspan="7">1. 系統看護学講座　専門分野　母性看護学[2]　母性看護学各論　(医学書院)</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td colspan="7">1. 系統看護学講座　専門分野　母性看護学[1]　母性看護学概論　(医学書院)
2. 疾患別看護過程の展開　(学研)
3. マタニティ診断ガイドブック　第 4 版(医学書院)
4. クリニカルスタディ・ブック2 実習に役立つ病態マップ　改訂2版(ﾒﾃﾞｶﾙﾌﾚﾝﾄﾞ社)
5. ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程　第 2 版　(医歯薬出版)</td></tr>
<tr><td>備考
(ﾒｯｾｰｼﾞ)</td><td colspan="7">母子一体で非妊期・妊娠期・分娩期・産褥期を通した情報収集、アセスメントに必要な視点について学習してほしいと思います。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>科目区分</td><td>専門分野</td><td rowspan="2">講師名</td><td rowspan="2">院内講師</td><td rowspan="4">学年</td><td rowspan="4">2学年</td><td rowspan="4">履修期</td><td rowspan="4">2学期</td></tr>
<tr><td>授業科目</td><td>母性看護方法論・演習</td></tr>
<tr><td>単位・時間数</td><td>1単位 ・ 9/30 時間</td><td rowspan="2">実務経験の有無</td><td rowspan="2">有</td></tr>
<tr><td>授業方法</td><td>講義 ・ 演習 ・ 実技</td></tr>
<tr><td>科目目標</td><td colspan="7">異常な経過をたどった産褥期の事例展開を理解できる。</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="7">《事例:30歳代、女性、帝王切開術(腰椎麻酔)、弛緩出血があり安静療法、薬物療法を受ける褥婦の看護》
第1回(講義・演習)
1. 情報収集の視点
1)手術を受ける褥婦に必要な情報
(1) 帝王切開適応となる理由
(2) 帝王切開を受けるための処置・治療・保健指導
(3) 不妊手術の希望
(4) 入院時の状態
2)帝王切開術の術中の母児の状態
3)産褥期
(1) 退行性変化の状態
(2) 進行性変化の状態
(3) 心理状態・母親役割
(4) 家族・役割関係
(5) 生活・社会環境

第2～ 3回(講義・演習)
1. アセスメント分析の視点
1)退行性変化
(1) 麻酔による全身への影響
(2) 外科的処置による生殖器の復古への影響
(3) 創部痛による生殖器の復古への影響
(4) 安静療法による生殖器の復古への影響
2)進行性変化
(1) 術後の疲労・創部痛による授乳姿勢への影響
(2) 術後の疲労・創部痛による授乳回数の減少が母乳分泌に与える影響
3)心理状態・母親役割
(1) 術後の疲労・創部痛による授乳意欲への影響
(2) 安静療法による母児接触の減少がもたらす影響
(3) 帝王切開を受けたことによる分娩の自己評価への影響
4)家族・役割関係
(1) 帝王切開を受けたことによる家族計画への影響

第4回〔校内実習〕(実技)
1. 援助の実際
1)全身及び生殖器の状態把握
2)生殖器の復古を促す援助

第5回
科目終了試験
科目の振り返り</td></tr>
<tr><td>評価方法</td><td colspan="7">筆記試験(100 点)</td></tr>
<tr><td>テキスト</td><td colspan="7">1. 系統看護学講座 専門分野 母性看護学[2] 母性看護学各論 (医学書院)</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td colspan="7">1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学[1] 母性看護学概論 (医学書院)
2. 疾患別看護過程の展開 (学研)
3. マタニティ診断ガイドブック 第 4 版(医学書院)
4. クリニカルスタディ・ブック2 実習に役立つ病態マップ 改訂2版(ﾒﾁﾞｶﾙﾌﾚﾝﾄﾞ社)
5. ウエルネス看護診断にもとづく母性看護過程 第 2 版 (医歯薬出版)</td></tr>
<tr><td>備考
(メッセージ)</td><td colspan="7">母子一体で非妊期・妊娠期・分娩期・産褥期を通した情報収集、アセスメントに必要な視点について学習してほしいと思います。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>科目区分</td><td>専門分野</td><td rowspan="2">講師名</td><td rowspan="2">院外講師</td><td rowspan="4">学年</td><td rowspan="4">2学年</td><td rowspan="4">履修期</td><td rowspan="4">1学期</td></tr>
<tr><td>授業科目</td><td>精神看護学概説</td></tr>
<tr><td>単位・時間数</td><td>1単位 ・ 15 時間</td><td rowspan="2">実務経験の有無</td><td rowspan="2">有</td></tr>
<tr><td>授業方法</td><td>講義</td></tr>
<tr><td>科目目標</td><td colspan="7">1. 精神看護の対象の理解と支援のための基本的な考え方、および役割や機能を理解する。
2. 看護者の自己理解・他者理解・相互作用といった人間関係の構築に向け、重要な能力について
プロセスレコードを通して理解する。</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="7">第 1 回
1. 精神の健康と障害
1)精神の健康とは
2)精神障害の捉え方

第 2 回
1. 人間の心のはたらき
1)人間の心の諸活動
2)心のしくみと人格の発達
3)心の危機とストレス(セリエ・ラザルスの
ストレス対処理論)
第 3 回
1.関係の中の人間
1)全体としての家族
2)人間と集団

第 4 回
1. 精神科で出会う人々
1)精神を病むことと生きること
2)精神症状論と状態像

第 5 回
1. 社会の中の精神障害
1)精神障害と治療の歴史
2)日本における精神医学・精神医療の流れ
3)精神医療・福祉に関連する法律

第6回
1. リエゾン精神看護
1)身体疾患をもつ患者の精神保健
2)リエゾン精神看護とその活動
3)リエゾンナースの活動の実際
4)看護師の精神的健康への支援
2. 看護における感情労働と看護師の
メンタルヘルス
第7回
1. 援助関係の構築
1)プロセスレコード
2. セルフケアへの援助
1)オレムとアンダーウッド

第8回
科目終了試験</td></tr>
<tr><td>評価方法</td><td colspan="7">筆記試験</td></tr>
<tr><td>テキスト</td><td colspan="7">1. 系統看護学講座 専門分野 精神看護学[1] 精神看護の基礎 (医学書院)
2. 系統看護学講座 専門分野 精神看護学[2] 精神看護の展開 (医学書院)
3. 看護に生かす看護理論19 (サイオ出版)
4. 国民衛生の動向 (厚生統計会) 2023/2024
5. 看護診断のためのよくわかる中範囲理論</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td colspan="7">1. ナーシング・グラフィカ32 情緒発達と看護の基本 (メディカ出版)
2. オレムのセルフケアモデル 事例を用いた看護過程の展開 第2版 (ヌーベルヒロカワ)
3. 3. 看護実践に活かすプロセスレコード
－良いかかわりができるための具体展開と事例集― (廣川書店)</td></tr>
<tr><td>備考
(メッセージ)</td><td colspan="7">精神障害の成り立ちや考えが、決して特殊なものでないことを理解し、学習を進めて欲しい。精神看護学を「心を病む人への看護」と狭義に捉えるのではなく、全ての人々を対象とする看護であることを理解してほしい。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>科目区分</td><td>専門分野</td><td rowspan="2">講師名</td><td rowspan="2">院外講師</td><td rowspan="4">学年</td><td rowspan="4">2学年</td><td rowspan="4">履修期</td><td rowspan="4">2学期</td></tr>
<tr><td>授業科目</td><td>精神保健</td></tr>
<tr><td>単位・時間数</td><td>1単位 ・ 15 時間</td><td rowspan="2">実務経験の有無</td><td rowspan="2">有</td></tr>
<tr><td>授業方法</td><td>講義</td></tr>
<tr><td>科目目標</td><td colspan="7">1. 精神障害の予防と、家庭・地域・学校・職場での精神保健の向上について理解する。</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="7">第 1 回
1. 精神の健康
1)精神の健康の概念・定義
2)精神障害の一次・二次・三次予防
3)心の健康と社会
第2回
1. 社会とメンタルヘルス
1)現代社会と精神保健的問題
2)さまざまな社会病理現象
第3～4回
1. 心の機能と発達
1)フロイト:精神力動論、精神情緒の発達論
2)エリクソン:発達課題
3)自我の機能
4)心の防衛機制(抑圧、置き換え、反動形成、逃避、合理化、同一化、投影、昇華、転換)
第5～6回
1. ライフサイクルにおける精神保健(老年期・思春期を中心に)
1)登校拒否
2)発達障害
3)摂食障害
4)認知症
第7回
1. 精神障害の分類
2. 精神保健医療福祉の沿革・歴史
3. 精神保健医療福祉の法制度
1)精神保健福祉法
2)精神保健医療福祉に関する法制度
第8回
科目終了試験</td></tr>
<tr><td>評価方法</td><td colspan="7">筆記試験(100 点)</td></tr>
<tr><td>テキスト</td><td colspan="7">1. 精神看護学 I　精神保健学　(ヌーヴェルヒロカワ)</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td colspan="7"></td></tr>
<tr><td>備考
(メッセージ)</td><td colspan="7">基本的な用語を理解し、正確に記憶してください。授業を大切にしてください。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>科目区分</td><td>専門分野</td><td rowspan="2">講師名</td><td rowspan="2">院外講師</td><td rowspan="4">学年</td><td rowspan="4">2 学年</td><td rowspan="4">履修期</td><td rowspan="4">2学期</td></tr>
<tr><td>授業科目</td><td>精神看護方法論</td></tr>
<tr><td>単位・時間数</td><td>1単位・15/30時間</td><td rowspan="2">実務経験の有無</td><td rowspan="2">有</td></tr>
<tr><td>授業方法</td><td>講義</td></tr>
<tr><td>科目目標</td><td colspan="7">精神疾患の病態と検査・治療の基本を理解する。</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="7">第１回
1. 精神を病むことと生きること
1)「病の経験」の理解への手がかり
2)様々な病気の説明の仕方を探る
3)看護と精神医学の広がり

第2回
1. 精神症状論と状態像
1)症状とは何か
2)様々な精神症状
(1)思考の障害
(2)感情の障害
(3)意欲の障害
(4)知覚の障害
(5)記憶の障害
(6)局所症状

第3回
1. 精神障害の診断と分類
1)診断と疾病分類
2. 統合失調症
1)症状・病型とその症状
2)疫学・成因・治療

第4回
1. 気分[感情]障害[双極性障害および関連障害群、抑うつ障害群]
1)気分[感情]障害の歴史
2)気分[感情]障害の主要症状
3)気分[感情]障害の経過と予後
4)気分[感情]障害の疫学・成因
5)気分[感情]障害の治療

第5回
1. 神経症状障害、ストレス関連障害および身体表現性障害
1)恐怖症性不安障害[不安症候群]
2)強迫性障害(OCD)
3)重度ストレス障害および適応障害
4)解離性(転換性)障害
5)身体表現性障害

第6回
1. 生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群
1)摂食障害
2)睡眠障害
3)性機能不全、性同一性障害等

第7回
1. パーソナリティ障害
1)パーソナリティ障害の分類

第8回
科目終了試験
科目の振り返り</td></tr>
<tr><td>評価方法</td><td colspan="7">筆記試験(50 点)</td></tr>
<tr><td>テキスト</td><td colspan="7">4.　系統看護学講座　専門分野　精神看護学[1]　精神看護の基礎　(医学書院)</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td colspan="7"></td></tr>
<tr><td>備考
(メッセージ)</td><td colspan="7">精神領域で用いる必要最低限の用語は記憶してください。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>科目区分</td><td>専門分野</td><td rowspan="2">講師名</td><td rowspan="2">院外講師</td><td rowspan="4">学年</td><td rowspan="4">2 学年</td><td rowspan="4">履修期</td><td rowspan="4">2学期</td></tr>
<tr><td>授業科目</td><td>精神看護方法論
(精神障害者の看護)</td></tr>
<tr><td>単位・時間数</td><td>1単位・15/30時間</td><td rowspan="2">実務経験の有無</td><td rowspan="2">有</td></tr>
<tr><td>授業方法</td><td>講義</td></tr>
<tr><td>科目目標</td><td colspan="7">精神疾患の病態と検査・治療の基本を理解する。</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="7">第1回
1. 精神作用物質使用による精神および行動の障害
1)アルコール症
2)アルコール以外の精神作用物質使用による精神および行動の異常
3)ゲーム障害、ギャンブル障害

第2回～3回
1. 各発達段階であらわれやすい精神障害・心的不調
1)知的能力障害/知的発達障害
2)てんかん
3)発達障害
4)認知症
5)症状精神病

第4回
1. 精神科における治療
2. 精神療法
1)個人療法
2)集団精神療法
3)家族療法
3. 電気けいれん療法

第5回～6回
1. 薬物療法
1)精神科治療における薬物療法の意義
2)向精神薬とその種類
3)抗うつ薬
4)気分安定薬(抗躁薬)
5)抗不安薬
6)睡眠薬(催眠薬)
7)抗てんかん薬
8)抗認知症薬
9)抗酒薬
10)精神刺激薬

第7回
1. 環境療法・社会療法
1)環境療法・社会療法の歴史
2)治療共同体の実践
3)日本における社会療法の歴史
4)作業療法(OT)
5)精神科リハビリテーション

第8回
科目終了試験
科目の振り返り</td></tr>
<tr><td>評価方法</td><td colspan="7">筆記試験(50 点)</td></tr>
<tr><td>テキスト</td><td colspan="7">5.　系統看護学講座　専門分野　精神看護学[1]　精神看護の基礎　(医学書院)</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td colspan="7"></td></tr>
<tr><td>備考
(メッセージ)</td><td colspan="7">精神領域で用いる必要最低限の用語は記憶してください。</td></tr>
</table>